

1 型糖尿病 IDDM レポート 2024 発行にあたって

2000年の NPO 法人化に伴い、私たちは 2 4年に渡り、ペアで運営して参りましたが、今年 72 歳と 62 歳に なりました。

物価高、賃金アップ、ふるさと納税の減少と厳しい運営の中ではありますが、2025年の1型糖尿病根治の目標 達成に向けてブレることなく、最善を尽くします。

この1年の私たちの活動を「IDDM レポート 2024」でご報告させていただきます。

私、井上は来年8月をもって引退いたしますが、私、岩永が責任をもってその後を引き継ぎます。

その先の未来に向けては、現在、患者・家族からの後継者探しや現職員の人材育成に取り組んでおります。

1型糖尿病根絶という究極の目標達成に向けて、役職員一同全力を尽くしますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 理事長 井上龍夫 岩永幸三

1型糖尿病 IDDM レポート 2024 CONTENTS

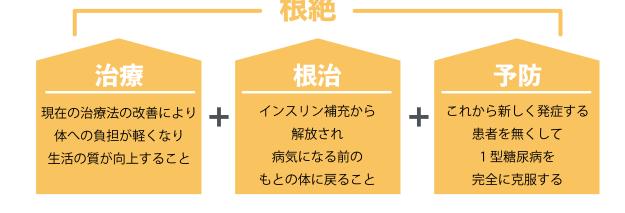
3つの約束	1
活動報告	2
研究支援の実績・成果	6
バイオ人工膵島移植の現状と将来	18
根絶に向けたロードマップ	20

ご支援&ご協力いただいた皆様 2
希望のバッグ 10 周年 2
活動"参加"メニュー2
遺贈寄付 "想いを未来につなぐ" 2
100 人委員会と 100 社委員会 2
団体情報

日本 IDDM ネットワークのミッション

インスリンの補充が欠かせない患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現する ことを目指します。

その当面のゴールは、1 型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にすることですが、 究極の目標は "1 型糖尿病の根絶(=治療+根治+予防)"です。



1型糖尿病とは

1型糖尿病は、主に自己免疫によっておこる病気です。自分の体のリンパ球が あやまって、自分自身の膵臓にある膵島β細胞の大部分を破壊してしまうことで 発病します。

生活習慣病でも、先天性の病気でもありません。過去のウイルス感染が きっかけになっている場合が多いと言われますが、いまだ原因不明の難病です。

現在のところ、1型糖尿病は膵臓移植や膵島移植を受けるか、血糖測定を しながら牛涯にわたって毎日数回の注射またはインスリンポンプと呼ばれる医療 機器によるインスリン注入を続ける以外に治療法はありません。

小児期に多く発症することに加え、治療を厳密に行わないと高血糖による心臓、 腎臓、眼、神経等の合併症が併発しますので、患者本人の苦痛はもとより、 患者家族にとっての精神的、経済的負担は多大なものとなっています。



インスリンポンプ (インスリンを持続的に注入する小型のポンプ)



インスリン注射



(持続的に血糖を測定する医療機器)

1型糖尿病

数%

数字で見る国内の1型糖尿病





有病率



糖尿病患者における 1型糖尿病患者の割合

日本 IDDM ネットワークの3つの約束

1. 救う 🤝

患者と家族の皆さんに、 私たちのこれまでの経験を 素早く還元します。

- ・最新情報の提供
- ・ピアカウンセリング
- ・政策要望(成人患者 医療費支援ほか)



2. つなぐび

患者・家族と研究者、医療者、 企業、行政、そして社会と つなぎます。

- ・多様な製剤や新しい デバイスによる療養 環境の充実
- ・1 型糖尿病の啓発
- ・大規模災害への対応



3. 解決する



研究者の方々に研究費を 助成し、1型糖尿病根絶 への道を開きます。

- ・研究費の支援
- ・研究情報の発信
- ・研究支援のための資金 調達



▮活動報告(政策要望)

日本IDDMネットワークでは、毎日のインスリン補充が欠かせない患者とその家族一人ひとりが希望をもって生きられる社会の実現 を目指し、1995年の創立以来様々な政策要望活動を行っています。

2023年度に行った「1型糖尿病患者の療養状況に関するアンケート」(780名から回答)や「日本IDDMネットワークの活動内容に関する アンケート」(610名から回答)からも政策要望に関する期待が高いことが示されました。

特に、医療費については、約75%の方が負担を感じており、様々な工夫で他の支出を減らす、希望する医療(先進的なデバイスの使用など) を受けられないつらさや成人以降の医療費、老後まで続く医療費負担(生涯を通しての高額な医療費負担)への不安感が強く示されました。

このように患者・家族の求める支援として、圧倒的に成人以降の患者への公的な医療費助成を求める声が寄せられました。具体的に は1型糖尿病が国の定める「指定難病」となること、また先進的なデバイス(CGM、インスリンポンプ)やインスリン製剤にかかる費用へ の助成が望まれています。

総じて、1型糖尿病を持ちながらの生活においては、経済的な不安と老後の生活への不安(金銭負担や介護)があらためて確認できました。 今後もこうした政策要望を重点事業として取り組みます。

#2023年度の主な政策要望活動#

20歳以上の患者支援策

20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成について厚生労働大臣へ要望しました。

■要望内容

- 1 「指定難病」として「1型糖尿病」の認定を
- 2 当面の対応策として小児慢性特定疾病医療費助成年齢上限を25歳まで引き上げへ

■准歩状況

20歳以上の1型糖尿病患者への医療費助成については、国の制度化(難病指定) に進展はありませんが、佐賀県の企業版ふるさと納税を活用(佐賀県庁の企業版 ふるさと納税活用型CSO地域課題解決支援事業に採択)し、佐賀県で25歳までの 1型糖尿病患者医療費助成を4月から開始しました。

この事業をきっかけに全国で医療費支援が実現することを願い、「1型糖尿病患者 医療費支援基金」を設立しましたのでご支援ください。

このほか、糖尿病専門医の方々と連携し、2024年2月の学術集会「糖尿病学の進歩」や

7月の「日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会」での登壇や今後の対応策について意見交換を続けています。 引き続き、関係団体とも連携して、全国の成人1型糖尿病患者への医療費助成実現に向けて要望を行っていきます。



「糖尿病学の進歩」に理事長の井上登壇



特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の医療費助成の申請窓口一元化

特別児童扶養手当と小児慢性特定疾病の医療費助成の申請窓口一元化について厚生労働大臣へ要望しました。

■要望内容

小児慢性特定疾病医療費助成は都道府県、指定都市、中核市の保健所への申請であるのに対し、特別児童扶養手当は市区町村 の福祉関連担当部署が申請窓口であり、申請窓口が全く異なることで、保健所を訪れた家族は、特別児童扶養手当の情報に触れ られずに帰ってしまうことになっている。よって、両制度の申請窓口の一元化を。

■進歩状況

2024年3月の厚生労働省障害保健福祉部企画課主催の障害保健福祉関係主管課長会議において「特別児童扶養手当等の 広報の充実について」の項で『自治体の小児慢性特定疾病医療費等に関する窓口などで特別児童扶養手当について紹介し、説明 の求めがあれば、特別児童扶養手当の担当部門に案内して頂く、等の取組が考えられる。ついては、本制度の対象となる方に広く 周知されることが重要であるので、上記について管内の各実施機関に周知いただくようお願いする。なお、特別児童扶養手当 の周知に当たっては、「小児慢性特定疾病医療費または特定医療費の支給認定の申請時における特別児童扶養手当等の各種 手当の周知について」(令和4年4月8日付け厚生労働省健康局難病対策課・社会・援護局障害保健福祉部企画課連名事務連絡) も参考とされたい。』と改めて地方自治体に対し周知が図られました。

申請窓口の一元化については実現に向けて引き続き要望していきます。

医療に関する規制緩和 「バクスミーの使用への規制緩和」

学校などの教職員等及び救急救命士の重症低血糖対応について厚生労働大臣へ要望しました。

■要望内容

インスリンの副作用による重症低血糖を起こしている場合、学校、幼稚園、保育園、認定こども園等の教職員等及び救急救命士 など、医師・看護師以外の人が、緊急的に点鼻粉末グルカゴン「バクスミー」を使用することについて、医師法違反などの違法性が 問われることのないように対応を。

■進歩状況

「学校の教職員による重症の低血糖発作時のグルカゴン点鼻粉末剤(バクスミー®)投与」について、2024年1月25日付で文部 科学省などの担当課から各都道府県・指定都市などに向けて、保護者等が事前に医師から書面で指示を受けている等の条件下 で、学校等の教職員等のバクスミー使用を医師法違反としない旨が通知されました。

救急救命士については、所定の研修と実習を修了した場合は、低血糖発作患者への「血糖測定 |と「ブドウ糖溶液の投与 |まで は可能になっていますが、「点鼻グルカゴン」についてはその対象とされていませんので、引き続き要望を行っていきます。

医療に関する規制緩和「医薬品等の広告規制」

製薬企業・医療機器関連企業から患者・家族に向けた情報提供について厚生労働大臣へ要望しました。

■要望内容

私たちのような一生病に付き合っていかなくてはならない患者・家族が、企業からの製品情報の提供や情報交換を行うことに ついて特に阻害要因となっている「広告の該当性」3要件解釈の中の「顧客を誘引する意図」及び「一般人」を明確にされ、患者・家族 が必要な医薬品等の情報入手が可能になるよう、関連法令等の整備や通知などの対応を。

■進歩状況

厚生労働省担当課から製薬企業に対して、当方の要望にも触れられ、自社医薬品の安全性情報や欠品情報は「広告には全く 該当しない」、患者・家族からの質問に適切に回答することは、広告に該当しない旨を説明していただきました。文書でも「医療用 医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインに関するQ&A」(令和6年2月21日付け厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策 課事務連絡)のA10に「広告の該当性に関し、医薬品等の適正使用推進や安定供給に係る情報の提供等、顧客を誘引する意図が ない情報について自社製品と他社製品との比較の上で提供することは、広告には該当せず、これを行うことは差し支えない。」 とされています。

この厚生労働省の見解をもとに、製薬企業の方々と共通する「世界の患者のためにという究極の目的 | のために協働を進めて いきます。

■製薬企業に向けた取り組み

2024年6月9日に東京で開催した「サイエンスフォーラムin 東京-根治に向けてのカウントダウン2-」では、再度、製薬企業から の製品展示を企画しました。

実施に当たっては事前に企業から患者・家族への情報 提供についてのアンケートを行い、企業として情報提供 についての問題について調査しました。その結果、情報 提供の「広告への該当性」の解釈がポイントであることが 改めて確認できました。

その対策として、製品展示については主催者(患者団体) が自主的に実施し、展示品は主催者が企業から借用した ものとするとの条件を明示し、さらに行政(厚生労働省、 東京都)の確認を得て実施しました。その結果、医療機器 メーカー7社の展示が実現しました。

これを契機に次回はさらに多くの展示が実現するよう 対応していきます。



サイエンスフォーラムでの医療機器の展示

介護職員によるインスリン療法の実施

介護施設などでの介護職員によるインスリン療法の実施について厚生労働大臣へ要望しました。

■要望内容

介護施設に入所しインスリン補充療法を行っている糖尿病患者や在宅療養中の糖尿病患者に対して、介護施設などの介護職員 がインスリン療法を行うことについて、違法性が問われることのないよう関係法令の整備や通知などの対応を。

■進歩状況

2024年6月21日に閣議決定された「規制改革実施計画」において、介護職員による医療行為について「一定の要件の下、介護 職員が実施可能と考えられる行為の明確化についてその可否を含めて検討し、結論を得る。その上で、厚生労働省は、介護職員 が実施可能とする行為があるとの結論を得た場合には、一定の要件の下、介護職員が実施可能とする行為の実現のために必要 な法令、研修体系等について検討し、結論を得次第、速やかに必要な措置を講ずる。」とされました。

これにより、具体的な対応策を検討することになりますが、私たちの想いは引き続き要望していきます。

🗱 2024年度の新たな政策要望活動🛟

障害年金(障害基礎年金および障害厚生年金)の仕組みについて

「障害年金」には障害基礎年金と障害厚生年金の2種類がありますが、糖尿病の認定基準が明確に示されているのは障害等級 の3級のみです。

20歳未満の発症患者は初診時の加入年金(国民年金か厚生年金か)で判断されるため、ほとんどが「障害基礎 年金」になってしまいますが、障害基礎年金には障害等級3級の設定自体がなく、通常は障害年金の認定対象に なりえないのが現状です。

これは障害年金の仕組み自体に問題があり、障害基礎年金にも3級が設定されるべきことを国に要望していき たいと考えています。



|活動報告(イベント)

中高生向けキャリアデザインセミナー ~1型糖尿病をもつ先輩患者とともに~



3月、日々のインスリン補充が必要な中高生たちが持つ就職への 不安を少しでも軽減できるよう「キャリアデザインセミナー」を対面方式 で開催しました。一足先に社会人となった1型糖尿病の先輩患者に よるパネルディスカッションや参加企業のオフィス

ツアーを通して、子どもたちが自身のキャリアに ついて考えるきっかけとなりました。

動画はYouTubeの日本IDDMネットワーク公式 チャンネルで公開中です。





カーボカウント&先進デバイス活用WEBセミナー



毎年、対象者別に4回行っている本セミナーですが、2023年度は、新たに成人発症患者の方々を対象に開催しました。カーボカウント やデバイス(機器)についてだけでなく、職場への病気の開示や障害厚生年金、高齢になったときの血糖コントロールについても 話しあいました。

サイエンスフォーラム



6月、対面方式で開催し、後日、オンデマンド動画として配信しました。

1部では、西村理明先生(東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授)による最新の糖尿病治療に関する講演や、 松本慎一先生(国立国際医療研究センター研究所アドバイザー、一般社団法人医療用ブタ開発機構代表理事)と西村先生との

「バイオ人工膵島移植の 実現に向けて」対談を行い ました。松本先生は、 [Passion is Contagious (情熱は伝染する)」という 言葉とともに、「治らない」 から「治る」をみんなで目指 そうと呼びかけました。

2部では、話したいテーマ ごとに交流会を行いました。



左から松本慎一先生と西村理明先生



交流会



機器展示ブース

∖参加者の声/

最新の治療における情報を知り得たことと、ポンプなど機器を使われている方のお話しを直接伺え、実物も手にすることが でき、イメージがしやすかった。また、治療や移植に心血を注いでくださる先生方の存在が有難く、お話しも非常にわかり やすかった。

▮活動報告(ファンドレイジング)

マンスリーサポーター



4月1日から6月10日まで、マンスリーサポーター募集をよびかけ、患者本人、ご家族、お友達など、168人もの方々に新たにご参加 いただきました。ありがとうございました。



\参加者からのメッセージ/

5歳で1型糖尿病になり、治らない病気と言われた幼少期 は、精神的にも肉体的にも辛い思いをしてきました。治る病気 だと言われていたら、きっとその辛さは違っていたと思います。 子供たちの為に、治る病気だよと言ってあげられる未来を 私も夢見ています♡この病気だから出来ない、という事はない です! 色々な経験が自分を強くすることも伝えていきたい です。

\参加者からのメッセージ/

1型糖尿病の根絶を目標として、さまざまな活動をされている 日本IDDMネットワークの存在は、私たちにとってとても大きな 心の支えになっています!ありがとうございます。毎日血糖値 コントロールをがんばっている娘に「ついに治せる日がきたよ!」 と伝えられる日を楽しみにしております。

\参加者からのメッセージ/

大切な後輩が1型糖尿病になり、1型糖尿病がまだ治らない 病気であることや、日本IDDMネットワークのことを知りました。 患者の皆様が一刻も早く元の生活に戻れることをお祈り しております。

ふるさと納税クラウドファンディング



2023年度は、佐賀県庁の日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税によるクラウドファンディング(GCF®)を3回行いました。 なお、支援いただいた金額の85%が佐賀県から交付され、その中からふるさと納税返礼品にも一部充当しています。

iPS細胞から、移植後の治療効果が高い 「次世代型スマート膵島」をつくる



支援いただいた件数

863_# 30,963,500 ₽

研究助成した金額

次世代型スマート膵島を移植する新しい 再生医療が完成すれば、1型のみならず 2型も含めた多くの糖尿病患者さんの お役に立てることができます。

研究成果をあげて、皆さまに必ず恩返し できるように今後より一層研究に精進させて 頂く所存です。引き続き御支援を賜れます よう何卒よろしくお願いいたします。 京都大学iPS細胞研究所 教授 長船 健二

バイオ人工膵島移植 (膵島補充療法)の実現



支援いただいた件数

783_# 33,473,906_円

研究助成した金額

まずは、2025年にバイオ人工膵島を実現 し、皆様と一緒に成功を祝い、そして 2035年に希望する患者全員が日帰りで 移植を受けられるよう、全力を尽くします ので、引き続きご支援をよろしくお願い します。

一般社団法人医療用ブタ開発機構 代表理事 松本 慎一

新しい1型糖尿病治療薬 の開発



支援いただいた件数

381_# **16,233,311**_円

研究助成した金額

今回、大きな研究助成をいただき大変 感謝しております。ご支援のおかげで、本 研究を大きく進展させることができます。

患者・家族や寄付者の方々のご期待に しっかりと応えるべく、1日でも早く皆様 のお手元に新薬を届けられるよう研究を 准めていきます。

国立がん研究センター先端医療開発センター・ 新薬開発分野 分野長 安永 正浩

1型糖尿病研究基金の収支と研究支援の実績・成果

2023年度は1型糖尿病研究基金に1.5億円を超えるご寄付をいただき、研究支援の総額は累計で8億3816万 円(2024年6月末時点)となりました。こうした支援を行うことができたのは、寄付者の方々はじめ、活動に参加 してくださった皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

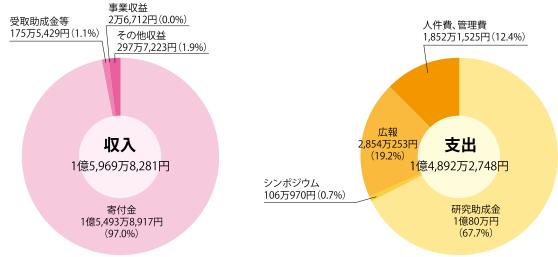
このレポートでは2023年度に支援した研究の概要を掲載しています。いただいた寄付による想いをどのよう な研究へと託したかをぜひご覧いただき、1型糖尿病「根絶」の未来を一緒に思い描いてください。研究者の方々 は、懸命に、その日を目指して研究に取り組まれています。

なお、これまで支援してきた研究の進捗については、日本IDDMネットワークのWEBサイトから ご覧ください。

1型糖尿病「根絶」のために、これからも皆様のご協力をお願い申し上げます。

2023 年度の 1 型糖尿病研究基金の収支

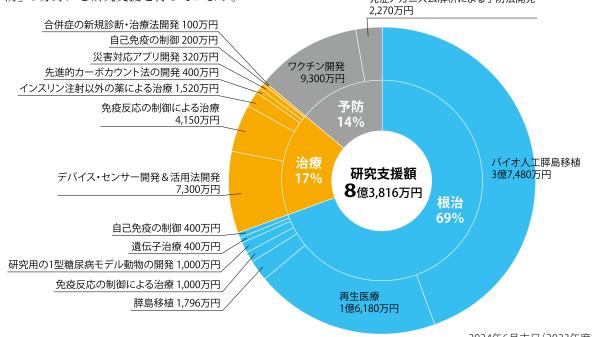
■ 1型糖尿病研究基金設立(2005年)からの収入と支出



- ※ 当法人の会計年度は、7月から6月までです。
- ※ 寄付金には、ふるさと納税による佐賀県庁からの寄付を含みます。
- ※ 1型糖尿病研究基金を含む当法人全体の会計報告の詳細はp.29をご覧ください。
- ※収支差額は、1型糖尿病研究基金に積み立て、次年度以降の研究支援等に活用します。

これまでの研究支援額の内訳

日本IDDM ネットワークは"1型糖尿病の根絶(=治療+根治+予防)"を究極の目標として活動しています。 当面の目標として、2025年に1型糖尿病を「治る」病にする医療を実現するため、1型糖尿病「根治」の研究支援 に重点を置きながら、患者からの期待が高い「治療」の分野、未来に向けてこれから発症する患者をなくすための 「予防」の分野にも研究支援を行っています。 発症メカニズム解析による予防法開発





研究支援の実績

2023年度に私たちが研究支援を行ったテーマ、研究代表者の皆様です。

※所属、肩書は支援当時のものを表記しています。

2023年度助成

根治

ヒトiPS細胞から次世代型スマート膵島 をつくる

(佐賀県ふるさと納税資金)

研究代表者 長船 健二

(京都大学

iPS細胞研究所 教授)

助成金 2.400万円

→8ペー=ブ

Diabetes Cureに向けたβ細胞新生 の効率化および低侵襲化(2021年度~)

宮塚健 研究代表者

助成金 500万円

(北里大学医学部 内分泌代謝内科学 教授)

→9ページ

バイオ人工膵島移植のための国産医療用

ブタ製造

(金岩信一基金及び佐賀県ふるさと納税資金)

研究代表者 松本 慎一 (一般社団法人

医療用ブタ開発機構 代表理事)

■移植用膵島の「量産化」技術の開発

研究代表者

浅利 貞毅 (神戸大学大学院 (佐賀県ふるさと納税資金)

助成金 1.000万円

助成金 1.000万円

助成金 3.480万円

医学研究科 特命教授)

|移植後の患者の健康維持・安全確保の ための検査技術の開発

研究代表者

井上 亮 (摂南大学農学部

応用生物科学科

動物機能科学研究室 教授)

移植効率と安全性を確保するための 要素技術の開発

研究代表者

小須田 南 (日本大学医学部 内科学系糖尿病代謝

内科学分野 助教)

(佐賀県ふるさと納税資金)

(佐賀県ふるさと納税資金)

助成金 550万円

移植膵島量の非侵襲的縦断的評価に 基づく移植膵島増殖・保護法の開発 (2021年度~)

研究代表者 村上 隆亮

助成金 200万円

(京都大学医学部附属病院

→10ページ 糖尿病:内分泌:栄養内科 助教)

治療

マウス血漿中に存在する β 細胞特異的 ペプチドの同定

β細胞死の定量化に向けて-(2022年度~)

研究代表者

(契約に基づく循環型研究資金)

(北里大学医学部

宮塚 健

研究資金 350万円

内分泌代謝内科学 教授)

→11ページ

1型糖尿病に対するIL-7R標的 Antibody-drug conjugate(ADC)の 開発(2018年度~)

研究代表者 安永 正浩

(国立がん研究センター 先端医療開発センター・ 新薬開発分野 分野長)

助成金 100万円

→12ページ

日本人1型糖尿病患者の合併症進行に 関与する因子の探索とリスク予測 モデルの構築

研究代表者 片上 直人

(大阪大学大学院 医学系研究科

助成金 100万円

→13ページ

焼き肉、中華料理、ピザを安心して食べられる インスリン調整法の確立(2022年度~)

研究代表者 柚山 賀彦

(大阪公立大学大学院 医学研究科発達小児医学 後期研究医)

内分泌:代謝内科学 講師)

助成金 100万円

→14ページ

キネシンによってシャペロン蛋白の 局在を整える新しい抗糖尿病戦略の 開発(2022年度~)

研究代表者

田中庸介

助成金 100万円

(東京大学大学院医学系 研究科細胞構築学教室 講師)

→15ページ

人工知能による1型糖尿病療養の デジタルトランスフォーメーション(2022年度~)

研究代表者 富永 洋之

(契約に基づく循環型研究資金) 研究資金 100万円

(京都府立医科大学 大学院医学研究科

→16ページ

内分泌·代謝内科学 研究員)

予防

1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と 発症・抑制機序の解明(2016年度~)

研究代表者 宮寺 浩子

助成金 100万円

(筑波大学医学医療系遺伝医学 助教)→17ページ

ヒトiPS細胞から次世代型スマート膵島をつくる

研究代表者 長船 健二 京都大学 iPS 細胞研究所 教授

研究のゴール

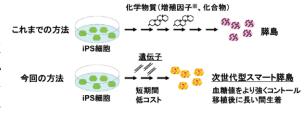
1型糖尿病の根治

研究の特徴

これまで iPS 細胞に化学物質をふりかけて膵島が作られてきましたが、今回の研究 では世界に先駆けて、iPS細胞にヒトの免疫や膵島の動きに関わる「遺伝子を導入する」 ことで、移植後に体内で長く生き延び、血糖値をより強力にコントロールし、免疫 抑制剤が不要になるという機能や性質が加わった「次世代型のスマート膵島」を作ります。

研究概要

本研究では、遺伝子を改良することによって、これまでの方法 移植後に拒絶反応が生じずに免疫抑制剤が不要に なる iPS 細胞から膵島を作ります。また、新しい 遺伝子を追加することで、移植後に体内で長く生き 延び、血糖値をより強力にコントロールする膵島を 作る方法を開発します。



※増殖因子: 体内の特定の細胞の増殖や成長を促進するタンパク質

ヒトiPS細胞からつくる次世代型スマート膵島

これまでの研究結果・成果

私たちは、これまでにヒト iPS 細胞に化学物質をふりかけることで胎児期の膵前駆細胞*とβ細胞を 含む膵島組織を作ることに成功しています。また、iPS 細胞から作られた膵島組織を糖尿病モデルマウス に移植することで血糖値が低下する治療効果を確認しています。今後、遺伝子導入によって治療効果の より強い膵島組織をより安価に作る技術を開発します。

※膵前駆細胞:受精卵が分裂・成長してさまざまな細胞に変化していくときに生じる、膵臓のもとに なる細胞

現在の状況

現在、これまでのヒト iPS 細胞から膵島を作る方法において、 化学物質から遺伝子導入に替えることを試みております。また、 遺伝子を改良することにより拒絶反応が生じない iPS 細胞から膵島 を作ることに成功し、モデルマウスへの移植を開始しています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

本研究の成果によって、移植後に体内で長く生き延び、血糖値 をより強力にコントロールし、免疫抑制剤が不要になる膵島を作り ます。また、この膵島は、これまでより安価で量産することが でき、小さなお子さまからで高齢の患者さままで、さらに1型に 加え2型糖尿病の治療にも使えることが期待できます。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

この度は皆さまより研究助成を頂き、大変感謝いたしております。 助成金を有効に活用して、一日も早く皆さまのお役に立てるよう、 当研究室のメンバー一同、毎日全力で研究に精進しております。 研究はゆっくりではありますが、着実に進捗しておりますので、 引き続き今後とも皆さまよりの御指導御鞭撻を賜れますよう、 何卒よろしくお願いいたします。

現在の進捗率 約13% スマート膵島の作製法の 現在 開発 臨床試験(人を対象に 2033年 有効性・安全性を調べる 研究)開始 治療法(次世代型スマート 2038年 膵島の移植)確立 (臨床試験にて有効性・安全性 を確認) 次世代型スマート膵島 2043年 の移植が国内で普及し 1型糖尿病が根治

- 🕽 長船 健二 先生プロフィール 【 🛈 座右の銘 🗗 趣味 🕄 特技 🗗 尊敬する人 🖯 好きな食べ物】
 - ●ぶれないこと ❷グルメ、旅行、スポーツ観戦 ❸マラソン ❹なし ❺何でも

Diabetes Cureに向けた β 細胞新生の効率化および低侵襲化(2021年度 $\sim)$

研究代表者 宮塚 健 北里大学医学部 内分泌代謝内科学 教授

研究のゴール

1型糖尿病の根治

研究の特徴

1 型糖尿病患者の膵島ではインスリンをつくる β 細胞の数が著しく減少しています。一方、同じく 膵島にある α 細胞(=グルカゴン(血糖値を上げる作用のある膵臓内のホルモン)産生細胞)の数は 保持されています。 α 細胞の特性を変えながらインスリンをつくる β 細胞へと変貌させることにより、1 型糖尿病の根治を目指します。

研究概要

マウスを用いたこれまでの研究で、 α 細胞に転写因子 Pdx1(β 細胞分化に必須の遺伝子)を導入することにより、 α 細胞から β 細胞をつくることに成功しましたが、その数は十分ではありませんでした。本プロジェクトでは、低分子化合物を用いて α 細胞を β 細胞へ変化させながら、効率的な β 細胞作製法を開発します。

マウスにおいてはさまざまな遺伝子操作が可能ですが、1 型糖尿病の根治を実現するためには安全性の高い方法を確立する必要があります。今回はアデノ随伴ウイルス(AAV)を用いて遺伝子導入を行います。AAV は安全性の高い "遺伝子の運び屋"として注目されており、糖尿病以外の疾患に対する遺伝子治療においても利用されています。マウスにおいて、AAV を用いて遺伝子導入し、簡便で、効率的、かつ安全性の高い手法で α 細胞から β 細胞をつくることができれば、1 型糖尿病患者の根治を可能にする新たな治療法開発に繋がります。

【図】 膵 β 細胞再生医療の実現に向けて 糖尿病患者の膵臓では、インスリン産生細胞= β 細胞 の数が減少~廃絶している。失われた β 細胞を補充 するため、 β 細胞以外の細胞から β 細胞に似た細胞を 作り、糖尿病の根治を目指す β 細胞再生医療が注目 されている。本研究では生体内($in\ vivo$)でグルカゴン

産生細胞=α細胞からβ細胞への分化誘導を目指す。

脱分化:β細胞が未熟な状態に変化すること 再分化:再びβ細胞に戻ること

▶ これまでの研究結果・成果

転写因子 Pdx1 ϵ α 細胞に導入するための遺伝子改変マウスを作製し、 α 細胞から β 細胞をつくることに成功しました。このマウスの α 細胞の転写因子 Stat3 (様々な細胞の分化を制御する遺伝子) のはたらきを抑えると β 細胞新生効率(α 細胞から β 細胞へ変化した割合)が上昇しました。

 β 細胞死を誘導した糖尿病マウスの α 細胞に Pdx1 を発現させ、さらにグルカゴン受容体拮抗薬(グルカゴンの機能を抑える薬)を投与すると、 β 細胞新生効率が著しく上昇し、糖尿病マウスの高血糖を是正することに成功しました。 またインスリンを分泌する機能も回復していました。 さらに安全な再生医療実現に向けて、AAV を用いて Pdx1 を導入すると、 α 細胞の一部がインスリンをつくるようになりました。

現在の状況

ヒトやマウスの α 細胞に複数の遺伝子を導入すると β 細胞への分化を誘導できることが分かってきましたが、 β 細胞新生効率は高くありませんでした。

また複数の遺伝子を導入するという煩雑な操作を必要としており、それらの課題に対して本研究ではたった 1 つの転写因子 Pdx1 を導入するだけで、高い効率で β 細胞を誘導することに成功しています。

さらに α 細胞からつくられた β 細胞が患者本人のリンパ球(白血球の一種で免疫にかかわる細胞)により再び破壊される可能性があるため、それを回避する方法を開発する必要があります。我々はそのような研究にも着手しています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

1型糖尿病患者の膵臓に内在する α 細胞を標的として β 細胞をつくることができれば、ドナーからの移植を必要としないため、簡便であり、かつ医療費を低く抑えることも期待できます。また移植された膵細胞に対する免疫拒絶反応のリスクもありません。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

私たちのプロジェクトをご支援いただき誠にありがとうございます。 β 細胞 再生医療を早期に 1 型糖尿病患者にお届けできるよう、一丸となって研究に 邁進いたします。

コードマップ

2022年

、現在の進捗率 // 約28%

約28% // **2018年** α細胞からβ細胞への分化

2018年 α 細胞から β 細胞への分化 を誘導するマウスの作製

> α 細胞からより多くの β 細胞 をつくる方法を開発

2023年 AAVを用いた簡便かつ安全性 の高い遺伝子導入法の開始

2024年 糖尿病モデルマウス用いた α 細胞から変化した β 細胞の 機能評価

現在 α細胞由来のβ細胞と、元々存在するβ細胞との比較

2028年 β細胞新生効率のさらなる

2030年 AAVを用いた臨床試験

2035年 AAVを用いた β 細胞再生医療 の実用化

2038年 AAVを用いた遺伝子導入後の 長期的安全性の検証

2040年 1型糖尿病根治

● 宮塚 健 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

●人間万事塞翁が馬 ❷自転車 ❸免疫組織染色 ❹留学時代のボス ❺蕎麦

移植膵島量の非侵襲的縦断的評価に基づく移植膵島増殖・保護法の開発(2021年度~)

研究代表者 村上降亮 京都大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科 助教

研究のゴール

1型糖尿病の根治

研究の特徴

移植された膵島を保護または増やしてインスリン注射からの離脱を長期に可能にすることを目標にし、移植後に生存し体内に残っている膵島の量を画像検査で分かるようにできるか、また、生存する膵島量を保護または増やす有効な方法はないのかを、マウスなど小動物を使って検証します。

研究概要

膵島移植の長期成績の向上を目指し、私たちは、移植後の膵島量を 非侵襲的に知る方法を確立し、生存する膵島量を保護または増やす 有効な方法を探索・評価できるようにすることを目標に研究を行って います。

現行の膵島移植では、移植直後から移植された膵島は減少していく ため、インスリン治療が再び必要となることも稀ではなく、生存する 移植膵島量を保護・増殖を図り、移植の長期成績を向上させることが 必要です。

本研究では、医療現場で使用されている SPECT(スペクト)や PET (ペット) といった画像検査を応用し、画像を診ることで、膵臓のインスリン分泌細胞である膵 β 細胞を検知し、膵島量を評価できることを目指します(非侵襲的生体膵 β 細胞イメージング*)。これにより、移植し生き残っている膵島量を知ることができ、その増減を繰り返し評価できるようになります。

※イメージング:画像化ならびに画像を用いた評価

移植膵島 破壊・減少 保護・増殖



生きたまま繰り返し観察可能

薬剤を注射)

これまでの研究結果・成果

私たちはこれまでに、SPECTやPETを用いた非侵襲的膵 β 細胞イメージング技術を開発し、生きたマウスの膵臓に含まれる膵 β 細胞の量を繰り返し評価することに成功しました。また、生き残っている移植膵島のイメージングとその定量評価に成功しました。

現在の状況

ヒト iPS 細胞由来膵島やマウス膵島をマウスに移植し生き残っている膵島の量やその増減を画像で評価し、膵島量を維持または増やす方法や薬を開発しています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

移植し生き残っている膵島量を非侵襲的に画像で知ることができれば、その増減を繰り返し評価でき、病状のより詳しい評価や適切な治療の選択に役立つだけでなく、生存する膵島量を保護または増やすと予想される方法、薬剤が本当に有効なのかを検証し、新しい根治的な治療の開発が加速できると考えています。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

皆さまのご支援により、私たちの研究をさらに進めることができ、 感謝申し上げます。実際の薬剤や治療の開発・医療現場に貢献できる よう、さらには、1日も早く糖尿病の根治的治療が実現するよう 努力いたします。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

ロードマップ

、現在の進捗率 // 約35%

2022年

マウスを使った、移植膵島のイメージング・定量化の実験

現在

生き残っている移植膵島量 の増減を画像で評価できる 方法の開発

2026年

生存膵島量を保護または 増やすと予想される方法 ・薬の開発

2040年

膵島移植の研究と連携し 1型糖尿病の根治

● 村上 隆亮 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ❸ 特技 ④ 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

①考え方ひとつで人生は変わる(稲盛和夫氏) ②読書、喫茶店・焙煎所巡り ③コーヒーを淹れること ④両親 ⑤お刺身

マウス血漿中に存在する β 細胞特異的ペプチドの同定 $-\beta$ 細胞死の定量化に向けて-(2022年度 $\sim)$



研究代表者 宮塚 健 北里大学医学部 内分泌代謝内科学 教授

研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発

研究の特徴

発症後早期の 1 型糖尿病患者では、 β 細胞が日々破壊されていますが、"どのくらいのペースで破壊されるのか?"を明らかにする方法がありません。本研究では 1 型糖尿病患者の血液および β 細胞破壊を誘導した糖尿病マウスの血液を用いて、 β 細胞破壊に伴い血液中に放出されるペプチド(アミノ酸が 2 \sim 50 個程度繋がったもの)を測定する検査法を開発します。この検査法が実用化すれば、 β 細胞破壊を防ぐ治療法開発を進めることができます。

● 研究概要

1 型糖尿病は β 細胞破壊による絶対的なインスリン 分泌不全をきたす疾患ですが、1 型糖尿病における β 細胞破壊量の時間的な変化を非侵襲的かつ正確に評価する方法はありません。外来診察時の血液検査で β 細胞破壊を簡便に評価できる検査法を開発することが我々の目標です。

発症後早期の 1 型糖尿病の β 細胞破壊を再現したマウスを作製し、その血液を用いてペプチドーム解析(ペプチドを網羅的に調べる解析法)を行い、血液中に含まれる β 細胞由来ペプチドを見つけます。さらに発症後早期の 1 型糖尿病患者の血液を用いたペプチドーム解析を並行して行います。

これまでの研究結果・成果

共同研究者の小寺義男博士(北里大学理学部教授)は、 わずか 0.2mL という微量の血液から多くのペプチド断片 非糖尿病症例の降島
| Inaulia / glucagon | Bosco D et al. Diabetes 59: 1202-1210, 2010 | 超高感度 ペプチドーム解析 | ファロキサン投与 | 日型糖尿病患者の降島 | Sambaow はを反映する | anaulia glucagon | Instulia glucagon | Instulia

1型糖尿病患者は膵島にあるβ細胞破壊により絶対的なインスリン分泌不全をきたす。本研究で使用するβ細胞破壊モデルマウスはアロキサン投与により、任意の時期にβ細胞破壊を誘導できる。このマウスと1型糖尿病患者の血漿を用いてペプチドーム解析を行うことで、β細胞破壊を反映する未知のペプチドを見つけることができる。

を見つけることに成功しています。現在マウス膵島を用いたペプチドーム解析を進めており、①マウス膵島のペプチド情報、②マウス膵島の mRNA 情報(タンパク質を作る遺伝情報)、③ヒト ES 細胞(ヒトの受精卵から作成され、あらゆる細胞に分化する能力を持った細胞)由来 β 細胞の mRNA 情報、④糖尿病マウスの血液のペプチド情報を統合的に解析し、それぞれの共通点・相違点を見出しました。

現在の状況

マウス膵島および糖尿病マウスの血漿(血液から赤血球、白血球、血小板などを取り除いた成分)のペプチドーム解析を進めています。これと並行して、1型糖尿病患者22名と糖尿病ではないボランティア3名の血液を採取し、ペプチドーム解析の準備を進めています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

本研究で開発した β 細胞由来ペプチドを正確に測る検査法を一人一人の1型糖尿病患者に応用することにより、 β 細胞破壊を抑制する治療法開発につながる可能性が広がります。例えば、発症後早期の1型糖尿病患者において血漿中の β 細胞由来ペプチド濃度を低下させる治療薬を明らかにすることができれば、 β 細胞破壊の進行を抑制するような治療法の開拓に繋がります。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

本プロジェクトをご支援いただき誠にありがとうございます。1型糖尿病の β 細胞破壊を把握するための簡便な検査法を実用化し、 β 細胞破壊を防ぐ治療法を開発できるよう、全メンバーが一丸となって研究に邁進いたします。

現在の進捗率 約17% 2022年 β 細胞破壊モデルマウスの 作製 2023年 1型糖尿病患者の血液を採取 現在 ペプチドーム解析により β細胞由来ペプチドの探索 2026年 β細胞由来ペプチド測定 キットの開発 2028年 1型糖尿病患者血液を用いた ペプチド測定キットの実用性 の評価

2030年

- 宮塚健先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】
 - 1人間万事塞翁が馬 2自転車 3分の長組織染色 4留学時代のボス 5蕎麦

β細胞破壊を抑制する

治療薬開発

1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate (ADC)の開発(2018年度~)

研究代表者 安永 正浩 国立がん研究センター 先端医療開発センター・新薬開発分野 分野長



研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発

研究の特徴

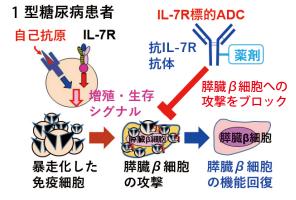
抗体(異物を自分の体から追い出すための対抗物質)に薬剤を付加することで、標的細胞に対して強力に治療効果を示すことができる次世代型抗体医薬 Antibodydrugconjugate (ADC) により暴走化した免疫細胞の制御を行うという、画期的な 1 型糖尿病の治療法を開発します。

研究概要

1型糖尿病は免疫細胞の暴走により自己の膵臓 β 細胞を攻撃することが発症の主な原因とされています。この暴走した細胞の目印になるのがインターロイキン7受容体(IL-7R)というタンパク質です。

欧米ではIL-7R に対する抗体(抗IL-7R 抗体)の臨床応用が進んでいますが、抗体のみでは効果が弱い可能性や、様々な理由で抗体が利かなくなることが起こります。そこで私たちは、IL-7R を標的とした ADC(抗体に薬剤を付加することで、標的細胞に対して強力に治療効果を示すことができる次世代型抗体医薬)が 1 型糖尿病の治療に有効と判断し、IL-7R 標的 ADC の臨床応用(患者に使用すること)を目指した研究開発を行います。

IL-7R標的ADCによる1型糖尿病の治療



自己抗原:自分自身の体の一部であるが異物として 認識された物質

これまでの研究結果・成果

白血病・悪性リンパ腫のがん化リンパ球に対して、抗 IL-7R 抗体に抗がん剤を付加した ADC が有効であることを確認しました。同時に関節リウマチなどの自己免疫疾患モデルでも自己反応性リンパ球(暴走した免疫細胞)の抑制に効果があることがわかりました。問題は副作用でしたが、抗がん剤の代わりに分子標的剤(特定のタンパク質のみを治療標的にして、その機能を抑制する薬剤)を使用することで、1型糖尿病モデルマウスでも副作用なく効果を示す実験結果をいつでも安定して得ることができました。1型糖尿病モデルではマウスの IL-7R に対する抗体を用いていましたが、臨床応用へ向けて、ヒトの IL-7R に対する抗体も作製しており、ヒトに投与できるように抗体の改変作業にも成功しています。

現在の状況

最近の研究から、"がん"と"自己免疫疾患"はコインの表裏の関係にあると考えられています。"がん"の治療では、免疫細胞のブレーキを解除して、抗がん作用(がん細胞を減弱・除去する作用)を増強することが大切でしたが、"自己免疫疾患"では、逆に暴走化した免疫細胞を制御することが重要な鍵となります。IL-7R 標的 ADC は暴走化した免疫細胞の制御法として現在優れた効果を発揮すると考えています。現在、患者さん由来の血液・免疫細胞を使って、ヒトの IL-7R に対する抗体を用いた ADC の有効性と安全性を調べています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

抗体医薬は、いまだ有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズの 高い疾患の治療薬として数多くの薬剤が臨床応用されています。

ADC は従来型抗体医薬を越えるパワーをもつ有望な次世代型抗体 医薬品です。1 型糖尿病の治療も可能になると期待しています。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

新薬の開発には、莫大なコストと長い時間がかかります。一方で、 重要なのは研究初期における理解と支援です。今回、みなさまのご支援 のおかげで本研究を継続することができるようになりました。さらに、 ご期待に沿えるような結果を出していきたいと思います。

ロードマップ

、現在の進捗率 // 約40%

T ADCOUNT #94070 //

2019年 ADCの技術基盤確立 マウスでの治療実験

2022年1型糖尿病モデルマウスでの
ADCの有効性の証明と作用

する仕組みの解明

2022年 薬剤の選択とその安全性

試験

現在 ヒトに投与可能な抗IL-7R 抗体の作製と機能評価

2025年 ヒトに投与可能な品質・安全 基準を満たした薬の作製

及び応用試験

2026年 薬が適切かつ安全であること を保障する試験と規制当局

への治験開始の相談

2028年 治験開始

● 2030年 新しい1型糖尿病 治療法の開発

- 安永 正浩 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】
 - ●困難の中に機会がある ②映画・音楽 ③写真 ④西川伸一、松村保広 ⑤焼きめし

日本人1型糖尿病患者の合併症進行に関与する因子の探索と リスク予測モデルの構築



研究代表者 片 直人 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 講師

研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発(合併症の進展抑制を見据えた最適な診療アプローチの構築)

研究の特徴

近年の1型糖尿病治療の進歩は著しく、合併症予防の観点で特に注意すべき事柄にも変化がみられる可能性があります。この研究では、最新医療機器で治療中の患者さんも含め、現在わが国で治療中の1型糖尿病患者さんにおける慢性合併症(網膜症、腎症、神経障害、動脈硬化性疾患)や併存疾患(歯周病、認知症、癌、感染症など)の危険因子を明らかにします。さらに、合併症・併存疾患の発症リスク予測モデルの作成を行うと同時に合併症・併存疾患を発症しやすい1型糖尿病のタイプを突き止めます。

研究概要

この研究では患者さんの病気に関わる情報や検査データを活用することで、日本人の1型糖尿病の患者さんにおける糖尿病の合併症と併存疾患の発症・進展に関わる因子を探索します。さらに、機械学習(データからコンピューターが自動で学習)等によりリスクを予測するモデル(計算式やルール)を作成し、合併症や併存疾患の発症および進展を抑制することを見据えた最適な診療アプローチを構築することを目指します。

これまでの研究結果・成果

私たちの研究グループでは、これまでに、若年発症の日本人 1 型糖尿病患者集団を追跡することなどを通じて、Adavanced Glycation Endproducts (AGE:身体の様々な老化に関与する物質)の蓄積や種々の炎症関連マーカー(CRP、IL-18、Pentraxin 3 など)などが大血管症、網膜症、腎症といった糖尿病合併症と関連

1型糖尿病患者を対象とした前向き観察研究(現在から未来に向けたデータ を収集した研究)の概要と期待される成果 糖尿病患者(418人×5年間) 種々の臨床情報の収集 糖尿病合併症・併存疾患に関 ①基本的臨床情報(年齢、性、家族歴、食習慣など) ②身体所見(BMI、内臓脂肪量、血圧など) する種々の臨床データの収集 ③投薬内容(インスリンの種類、投与量、投与方法、 ④血糖管理状態・持続血糖モニタリング等により収集 した血糖変動に関する種々の指標など ⑤血液・尿検査(糖・脂質代謝、肝機能検査など) 統計解析 機械学習 💸 💸 🖔 合併症発症・進展に関連する因子の検出 合併症発症・進展リスク予測モデルの作成 早期診断システム開発 発症・進展の病態解明 予防・治療への応用

することなどを報告してきましたが、個々の患者さんのリスクを評価できるまでにはまだ至っていません。 本研究を通じて、個々の患者さんが将来どれくらい糖尿病合併症や併存疾患を発症しやすいかを推定すること

本研究を通じて、個々の患者さんが将来どれくらい糖尿病合併症や併存疾患を発症しやすいかを推定することができるようになり、その発症を防ぐためには特にどのような点に留意すべきかが明らかになる可能性があります。

現在の状況

若年発症1型糖尿病患者を対象とした後ろ向き観察研究(過去のデータを収集した研究)を通じて、インスリンポンプ療法などの治療の進歩等によって血糖管理状態(HbA1c値)が次第に改善してきているものの腎機能の低下や動脈硬化の進行が認められること、そのリスクとして、血圧、血中脂質、肥満度が挙げられることを明らかにしました。本研究では新たに1型糖尿病患者さんを登録し、前向きに観察(現在から未来に向けたデータを観察)することで、合併症・併存疾患のリスクについてさらに詳細に検討します。既に対象患者さんの登録・観察(様々な検査データ等の収集を含む)を開始しています。中間解析の結果から、インスリン分泌能が低下していても血糖管理が良好であれば、合併症の進行が軽度であることなどが見えてきました。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

1型糖尿病は比較的若年より種々の糖尿病合併症を伴うリスクが高いことが知られています。このため、本研究を通じて、1型糖尿病における合併症・併存疾患の危険因子を明らかにし、合併症・併存疾患の発症リスクの高い患者さんを早期に突き止めて、より効果的な予防・治療を行うことが可能になれば、患者さんの QOL や長期予後の改善、糖尿病治療の最終目標である「糖尿病をもつ人が糖尿病のない人と変わらない生活ができるようにする」ことに繋がる可能性があります。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

本研究に温かいで支援をいただき、誠にありがとうでざいます。私たちは臨床医(患者に診察や治療を行う医師)からなる研究グループで、約20年前から1型糖尿病患者さんの予後・QOLの改善を目指して診療・研究に取り組んできました。「糖尿病をもつ人が糖尿病のない人と変わらない生活ができるようにする」ことを目指して、これからも診療・研究に精進してまいります。

ロードマップ 現在の進捗率 約33% 2022年 倫理委員会承認 症例登録開始 (観察開始の一時点のデータ 収集開始) 現在 症例登録中 (観察開始の一時点のデータ 収集) 2026年 横断データ(観察開始の一時点 のデータ)の解析 2028年 縦断データ(観察開始時から 経時的に収集した複数時点 のデータ)の解析 2030年 合併症・併存疾患の 進展抑制を見据えた 最適な診療アプローチの

構築

● 片上 直人 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

●「人間万事塞翁が馬」 ②読書、散歩 ③家系図を覚えること ④大久保利通 ⑤チョコレート

焼き肉、中華料理、ピザを安心して食べられるインスリン調整法の確立(2022年度~)



研究代表者 柚山 賀彦 大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学 後期研究医

研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発

研究の特徴

焼き肉や中華料理、ピザといったタンパク質・脂質をたくさん含む食事の食後血糖値は不安定になりがちです。

この研究では、どんなインスリンをいつ、どれだけ打てばいいのか、1型糖尿病の状態にしたマイクロミニピッグを使って、ヒトでは再現できない極端な食事でその「計算方法」を確立します。

研究概要

インスリン治療において、食事に対するインスリン量をどうするか、血糖値を安定させるためにとても大切な考え方です。炭水化物へはカーボカウント法を使えますが、焼き肉や中華料理、ピザなど高タンパク・高脂質食を多く食べると、その夜から翌朝に思わぬ高血糖となってしまう経験をする方は多いと思います。どうやって焼き肉に立ち向かうのか、その方法は現在も患者さんの経験に委ねざるを得ません。いろいろな話をみんなで聞いて、考えていますが、「これだ!」と自信をもって言える方法はまだないのです。タンパク質や脂質の影響を考えるためには、①タンパク質や脂質だけを食べて血糖値





ブタへCGMセンサーを 付けています。

首の血管から点滴しています。

を観察する。②動かずじっとしておく。など食事以外の影響を無くすこと、この 2 つを繰り返すことが必要です。しかし、そういった極端な食事を患者さんにしてもらうのはとても負担になり、つらいことで現実的ではありません。

そこでこの研究では、ヒトに近く、雑食なブタを実験動物として使用します。1型糖尿病と同じくインスリンが分泌できないようにしたブタに、持続グルコースセンサー(CGM:リブレや Dexcom など)を装着します。そしてプロテインだけ、油だけを食べさせて、血糖変動を見ます。その変動に合わせて、インスリンの打ち方を作り上げます。

これまでの研究結果・成果

共に研究をしている川村智行(あべのメディカルクリニック院長)は、タンパク質と脂質の血糖変動への影響を研究してきました。特にブタのホルモンや食物消化の状態がヒトと近いことに注目し、マイクロミニピッグを使った研究を続けていました。その成果として、インスリンを作る β 細胞を破壊できる実験用試薬(ストレプトゾトシン)を使い、1型糖尿病モデルブタを"試作"し、持続グルコースセンサー(CGM)を埋め込んで血糖値の変化を観察することに成功しました。この研究に、栃木県のハムリー株式会社という動物研究施設が協力を申し出てくれたことで、より安定した研究環境が出来たことから、今回の計画につながっています。

今回の研究では、この1型糖尿病モデルブタを①安定して作る方法を完成させる②できたモデルブタに色々なタンパク質、脂質を食べさせて血糖値を観察する③その血糖値に合わせたインスリンの使い方を確立する。以上の3点を目標とします。方法が確立すれば、ヒトでも通用するのか、改めて研究計画を立てていきます。

現在の状況

前回報告までの成果を元にマイクロミニピッグモデルが再現できるか検討しました。結果、2頭とも完全にインスリンが枯渇し、再現性を確認できました。更にインスリンポンプと持続グルコースセンサーを装着し血糖管理する手法も確立しました。当初予定していたより細かく血糖の推移を観察できたり、インスリンの調整が可能となりました。

■ この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

1型糖尿病を持つ人が、どんな食事でも、ちゅうちょすることなく、食べることができる 社会の実現が最大の目標です。インスリンポンプを使う人だけでなく、ペン型注入器であっ ても、老若男女どんな人でも広く使うことのできるインスリン調整法を作ることが期待され ています。

本研究支援のおかげで、1型糖尿病モデルブタはほぼ完成しました。このモデルを使えば実用的な治療研究に応用できるかもしれません。例えばこの1型糖尿病モデルブタを用いて、糖尿病性ケトアシドーシス(インスリン不足が続くことにより、全身倦怠感などの症状が急激に起こり、治療が遅れると意識を失うなど命にも関わるリスクのある重篤な症状)に必要なインスリン量や点滴速度の確立ができれば、入院せずに短時間で安全にケトアシドーシスを治療でき、患者さんへの負担を減らすことができるかもしれません。

■ 患者・家族、寄付者へのメッセージ

ピザやカレー、焼き肉に中華料理といったものを食べるとき、どうやってインスリンを打とうか?と悩んだ方がたくさんいらっしゃるかと思います。深夜に起きて調整されているご家族や、変な血糖の動きをするからと食事を避けてしまう人もいるかもしれません。もちろん、ポンプやセンサーという技術の進歩でカバーできることもあるでしょう。でも、経済的理由や様々な理由でそれが叶わない人もいます。誰でも、遠慮なく、笑顔で食事ができる、そんな環境を作り上げたいと考えています。

ロードマップ

現在の進捗率 // 約40%

2022年

マイクロミニピッグの1型糖尿病モデル作成のために必要である安全な薬剤投与方法の確立

2023年

作成したモデルブタの評価 (本当にインスリン分泌がなくなったのか)

現在

モデルブタを用いて、脂質、 タンパク質に基づいた インスリン投与量確立

2026年

ブタで得られた結果に 基づき、ヒトへの応用可能性 を検証する。

🔵 2028年

新しいインスリンの計算 方法の開発

● 柚山 賀彦 先生プロフィール 【 ① 座右の銘 ② 趣味 ❸ 特技 ④ 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

- ●一生懸命、"本気になって"やれば、できる ❷クイズ、こどもとゲーム(親子でポケモンファン) ❸雑学、ネット環境整備(教室のネット担当です)
- ●川村智行先生(主治医兼師匠)、小柴昌俊先生(ニュートリノ発見でノーベル物理学賞受賞) ●青椒肉絲(中華全般)

キネシンによってシャペロン蛋白の局在を整える 新しい抗糖尿病戦略の開発(2022年度~)



研究代表者 田中 唐介 東京大学大学院医学系研究科細胞構築学教室 講師

研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発

研究の特徴

膵β細胞内部の「シャペロンタンパク質」の細胞表面への沈着を抑制するメカニズム を解明し、自己免疫性の1型糖尿病の新薬開発を目指します。

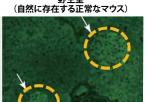
研究概要

膵β細胞には、インスリンを分泌し血糖を下げる大切 な役割があります。本来は細胞内部にあるはずの特定の タンパク質が何かのきっかけで細胞の表面に顔を出す ことで、これを標的として免疫細胞に攻撃されるように なり、1型糖尿病を発症します。

本研究では、膵β細胞内部に存在するタンパク質(シャ ペロンタンパク質)の細胞表面への沈着(強く染まる ようになること) に着目し、この表面への沈着を制御する しくみを、細胞の中でさまざまな物質を運ぶ役目の 「分子モーター」という酵素の働きに注目して研究します。さらにこの仕組みを阻害するような薬を見つける

ことで、1型糖尿病の新薬開発を目指します。

分子モーターノックアウト



分子モーターを働かなくしたマウスの膵島(左、矢印)では、野生 型の膵島(右、矢印)よりも強く、シャペロンタンパク質(緑色)が 染まるようになりました。このことと、自己免疫性の1型糖尿病と の関係を探ります。

これまでの研究結果・成果

私たちはヒトの遺伝子から、45種類もの「分子モーター」を発見し、モデルマウスを使ってそれらの 機能を調べてきました。その中には、痛覚を増強するタンパク質を神経細胞内に引っ込めて、痛みの持続 を短縮できる分子モーターや、脳の神経のつながりを維持するタンパク質を細胞内に引っ込めて、心の トラウマを解消できる分子モーターなどがありました。

今回、分子モーターのひとつである「キネシン」を膵島で働かなくしたモデルマウスでは、細胞内に あるべき「シャペロンタンパク質」の細胞表面への沈着が促進され、高血糖状態となっていることがわかり ました。

現在の状況

高血糖状態となったモデルマウスの膵臓を顕微鏡で見てみると、 「シャペロン」と呼ばれるタンパク質が膵島の表面に沈着し、「免疫 細胞」が攻撃してきているのを見つけました。同時に、シャペロンが 本来果たしている、タンパク質を正しい形に整えその機能を発揮させる 作用が減弱し、これによっても膵β細胞の働きが低下していることが わかりました。

また、抗がん剤の中には1型糖尿病を誘導するものもあり、その薬剤 の作用を分子モーターとの関連で調べます。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

現在、1型糖尿病に対して有効な、免疫細胞からの攻撃を直接抑える 治療薬はまだ知られていません。私たちは、細胞内の分子モーター とシャペロンタンパク質の関係をもとにして、自己免疫を抑制する 化合物を探ります。そして、抗がん剤などによって生じる1型糖尿病 の発症も抑える抗糖尿病薬の作成に挑みます。

患者・家族、寄付者へのメッセージ

このたびは私たちの研究にご支援をいただきありがとうございました。 私たちは内科医ではなく、細胞の機能を研究する基礎医学者です。 糖尿病の専門家の先生方と一緒に、新しい細胞の見方考え方を通して、 糖尿病の新薬が早く完成できるように努力していきます。

現在の進捗率 約30% 2013年 分子モーターノックアウトマウス (分子モーターを働かなくした マウス)の血糖値の調査 2018年 分子モーターノックアウト マウスの膵島の観察 分子モーターノックアウト 現在 マウスの膵島細胞の解析 2025年 分子モーターを増やすと自己 免疫が改善されるか解析 2028年 分子モーターを増やす薬の 選別 2033年 分子モーターを増やす薬の 開発と臨床試験 2040年 1型糖尿病の治療法開発

-) 田中 庸介 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ❸ 特技 ② 尊敬する人 ❸ 好きな食べ物】
 - ①流水は腐らず ②ピアノ、山歩き ❸詩作(受賞詩集もあります) ❹中井準之助先生(昔の解剖学者) ❺ハンバーグ

人工知能による1型糖尿病療養のデジタルトランスフォーメーション(2022年度~)

研究代表者 富永洋之 京都府立医科大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科学 研究員

研究のゴール

1型糖尿病の治療法開発

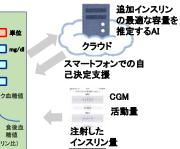
研究の特徴

スマートフォン・ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ)を用い、食事を撮影すると最適な追加インスリンを提案する人工知能(AI)を開発し、1型糖尿病患者にとって自由度の高い食生活を実現します。

研究概要

1型糖尿病は免疫の異常などの理由により膵臓の β 細胞が十分に機能できなくなる病気です。膵臓の β 細胞は血糖値を下げるホルモン・インスリンを作るため β 細胞が十分に機能できなくなると 血糖値が上昇しやすくなります。1型糖尿病に とってインスリンの投与は重要で、適切な量の インスリンを注射することで血糖値が適切に管理





されると考えられています。このため、健康的な食事をとり、食事に合わせてインスリンを投与することが 重要です。このことを実現するための方法のひとつが応用カーボカウントと呼ばれる方法で、食事でとる 炭水化物量を推定し、炭水化物量に合わせてインスリン量を調整します。一方で応用カーボカウントの 習得の問題や、運動をはじめとする様々な生活様式で血糖が変動する問題を解決する必要があります。

最近では、スマートフォンによる食事管理を色々な目的で利用している人が増えてきています。スマートフォンのカメラ機能で写真を撮って AI による画像解析を行い、食事のカロリーや炭水化物量などを簡単に計算できます。

また、日々の活動量に関しても最近普及してきたウェアラブルデバイス(腕時計タイプの身に着ける情報機器)で計測することができます。カーボカウントや活動量、血糖推移などのデータを組み合わせて、今まで以上に最適な追加インスリン量を決定することができると考えられます。

● これまでの研究結果・成果

食事画像解析 AI やウェアラブルデバイス(腕時計タイプの身に着ける情報機器)との連携ができるアプリを開発しました。

現在の状況

1型糖尿病患者を対象とした血糖推移・食事データ・活動量などの 臨床データを蓄積し、独自のアルゴリズムで追加インスリン量の最適化 できる AI を開発しました(AI carbo AI version 1)。現在、臨床試験(人を 対象とした有効性・安全性の確認試験)の準備を行っています。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

インスリン量の推定に AI からの支援を受けられることで、食事やインスリン量に悩む糖尿病がある人の悩みや食生活の制限を和らげられると考えます。

● 患者・家族、寄付者へのメッセージ

持続血糖測定器やインスリンポンプの進歩は目覚ましく、糖尿病診療のデジタルトランスフォーメーション(DX)が起きています。デジタルデバイスを用いた治療は糖尿病がある人の生活の質(QOL)を向上させると期待されていますが、食事ごとにインスリン量を調節し、インスリンを注射している方においては「最適なインスリン量を推定する」という課題が残っています。最新のAIを開発し、実際にアプリに搭載することにより、この課題を打破できます。

この研究を成功させ、1型糖尿病治療の新たな扉を開きたいと考えています。ご支援をよろしくお願いいたします。

ロードマップ

、現在の進捗率 // 約70%

2022年

スマートフォンアプリの開発

最適な追加インスリン量を 提案するAIの開発開始

2023年

第一世代のAl (Alcarbo Al version 1) が完成

現在(

炭水化物量、血糖値、食後の 運動予定を入力することで 食事ごとに最適なインスリン 量の提案を行うAIと連動する アプリを作成中

アフリを1F/

2025年

AIと連動するアプリを用いた 臨床試験の実施

◆ 2030年1月 最適な追加インスリン量 を提案するアプリが希望するすべての 糖尿病患者に活用可能となる

● 富永 洋之 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

●継続は力なり ②スポーツ観戦 ③パソコン修理 ④父 ⑤寿司・蕎麦

1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症・抑制機序の解明(2016年度~)

研究代表者 宮寺 浩子 筑波大学医学医療系遺伝医学 助教

研究のゴール

1型糖尿病の予防 (病態の進行を遅らせる方法の確立)

研究の特徴

1型糖尿病のモデルマウスを用いて、1型糖尿病発症に至るメカニズム、発症を防ぐメカニズムを明らかにします。

研究概要

1型糖尿病には複数の遺伝要因、環境要因が関与します。発症に至るメカニズムの詳細は十分に解明されていませんが、免疫系が通常とは異なる働き(インスリンを産生する細胞に対する自己免疫応答)をすることによって引き起こされると考えられています。本研究は1型糖尿病のモデルマウスを用いて、1型糖尿病の発症に関わる免疫系の分子について遺伝子の改変を行います。この研究によって、1型糖尿病のかかりやすさを決定づける仕組みを明らかにします。

これまでの研究結果・成果

1型糖尿病モデルマウスの遺伝子の一部を改変した変異導入モデルマウスを複数作成し、1型糖尿病を発症しにくいモデルマウスを樹立しました。それぞれの糖尿病発症率を長期間に渡り観察した結果、変異を加えたマウスのいくつかでは1型糖尿病発症率が顕著に低下することを見出しました。現在、各マウスの免疫細胞の詳細な解析や、発症率・発症時期の比較解析を行っています。また、免疫系*で自己抗原*を提示する分子の解析も進めています。これらの成果に基づき、引き続き研究を継続していきます。

※免疫系:病原体やがん細胞などの危険な侵入物から自分の体を 守る仕組み

※自己抗原:自分の体の細胞に対する免疫反応を引き起こす原因 となる物質

1型糖尿病モデルマウスを改変 発症しやすい系統 発症しにくい系統 1型糖尿病を発症しにくいモデルマウス、 発症しやすいモデルマウスを樹立

現在の状況

変異を加えたモデルマウスでは、変異を加えていないマウスに比べて1型糖尿病の発症率が著しく低下することが現在までに明らかになりました。これらのマウスを用いて今後は免疫系の働き、例えば、膵島を攻撃する免疫細胞(T細胞)の表面にある分子の遺伝子配列や、T細胞以外の免疫細胞の働きを調べることにより、1型糖尿病の発症および抑制に至る仕組みが明らかになることが期待されます。

この研究で患者の生活や他の研究にどのような波及効果があるか(期待されるか)

1型糖尿病の発症の仕組みはヒトとモデルマウスでの共通性が大きいと考えられています。共通性のある部分や、ヒトを対象とした研究が困難な解析については本研究のモデルマウスはとても有用と考えています。一方、ヒトとマウスでメカニズムが異なると考えらえる部分については、今後ヒトの免疫系で働く分子を対象とした研究も行います。これらの研究で発症に至るメカニズムが明らかになれば、どのようなきっかけで発症に至るのか、そのメカニズムの解明、さらには発症後に進行を止めたり、膵臓の機能回復につなげられるような方法の開発につながります。また、膵島移植後の自己免疫による攻撃を制御する方法の開発にも貢献する研究です。

● 患者・家族、寄付者へのメッセージ

寄付者の皆さまのご支援のおかげで研究を円滑に進めることができており、 大変感謝しています。研究助成金はモデルマウスの飼育・維持、免疫系の メカニズムを解明するための実験を行うための試薬などに使用させていただいています。

ロードマップ 現在の進捗率 約50% 現在 1型糖尿病を発症しにくい まで モデルマウスを樹立 2025年 1型糖尿病の発症を抑制する メカニズムの解明 2030年 発症予防、進行を遅くする 方法の開発 2035年 発症予防ワクチン・薬剤開発 1型糖尿病予防法 2035年 (病態の進行を遅らせる

方法)の確立

● 宮寺 浩子 先生プロフィール 【① 座右の銘 ② 趣味 ⑤ 特技 ② 尊敬する人 ⑤ 好きな食べ物】

●特になし ②走ること ③草刈り・雑草とり ●回答無し ●薬味は何でも好きです

「バイオ人工膵島移植(膵島補充療法)」の現状と将来 インスリン補充から膵島補充への大転換

1型糖尿病の患者は自分の体ではインスリンが作れません。そのためほとんどの患者は注射などによる「インスリン補充」を毎日、毎食のたびに行っています。患者・家族はこのインスリン補充からの解放を願っています。

このインスリン補充にかわる新しい治療法が「バイオ人工膵島移植」です。これはインスリンを作る細胞(膵島)を体内に「補充」する方法です。他人から膵島を提供してもらう「膵島移植」は、2020年に保険適用になりましたが、圧倒的なドナー不足により、国内ではほとんど行われていません。

その解決策として大きな期待を集めているのがブタの膵島を体内に移植する「バイオ人工膵島移植」です。免疫抑制剤を使用しないため、体への負担も小さく、通常の「移植」のイメージとは大きく異なるのでこれを「膵島補充療法」と呼ぶことにしました。

インスリン補充療法

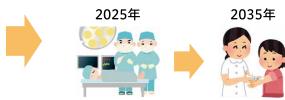
注射、機械(ポンプ)を使用してインスリンを体外から補充(1日4回程度)





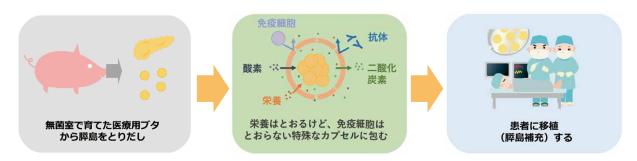
膵島補充療法

体内にインスリンを分泌するバイオ人工膵島を 補充(数年に1回)



腹腔内 皮

「ドナー不足」と「免疫抑制剤の服用」を一気に解決する方法です。図1のように無菌状態で飼育された「医療用ブタ」から膵島を取り出し、それを特殊なカプセルで包みます。そのカプセル化された膵島を患者に補充します。



【図1】膵島補充療法のプロセス(イメージ)

免疫細胞:外部から侵入してきたウイルスなどを「自分ではない」と認識して排除する働きをする細胞 抗体:ウイルスなどが体に入ってきたときに異物として体外に排除したりする働きをするタンパク質

🛟 希望する全ての患者に届くまでのロードマップ

現在は、バイオ人工膵島を日本で人にはじめて移植する(治験)前に可能な限りの効果と安全性を確認する実験を行いながら、日本で前例のないバイオ人工膵島移植に向けて、厚生労働省と治験に進めるためにはどのようなデータが必要かなどの話し合いも並行して行い、2025年の実現を目指して準備が進められています。

2035年には、希望する1型糖尿病患者が誰でも移植 手術を受けられ、糖尿病内科のある外科外来で日帰り で皮下注射で行えることを目指して研究が進められて います。

2024年	国産の医療用ブタ第1号の作成
2025年	バイオ人工膵島を日本でヒトにはじめて移植
2026年	5~10例のバイオ人工膵島移植(膵島補充療法)の実施
2030年	医療用ブタの量産技術の確立 移植(膵島補充)後に行う抗体検査の確立 外来で移植(膵島補充)できる技術の確立 膵島分離専用AIロボット完成 インスリン分泌能力を高めたバイオ人工膵島の作製
2035年	希望する患者全員が日帰りで移植(膵島補充)を受けられる

患者・家族への メッセージ



膵島補充療法を ふるさと納税で応援

ふるさとチョイスGCF®



国立国際医療研究センター研究所 膵島移植企業連携プロジェクト長

霜田 雅之 先生 Masayuki Shimoda

私はもともと消化器外科医ですが、17年ほど前、一度発症すると根本的には治らないと思っていた糖尿病を移植治療で治す方法があると知って衝撃を受け、膵島移植の分野に飛び込みました。

松本慎一先生のもと米国で膵島移植を学び、日本に帰国して、多くの方のご協力のもと実施することができるようになりました。

膵島移植は効果のある治療ですが、受けられる患者さんの数は限られています。希望する多くの患者さんに膵島移植を受けていただきたい、そのために現在もっとも実現可能性が高い方法は、医療用ブタからのブタ膵島を用いるバイオ人工膵島移植と考えています。

まったく新しい治療法であり、安全性など懸念点もあります。 しかしそのような懸念点は克服していき、最終的には受けたい患者 さんが皆受けられるようになる、そのビジョンが私の頭の中に あります。きっとたくさんの患者さんに喜んでいただけると信じて います。

患者さんに初めてバイオ人工膵島を移植する臨床試験である First in human試験の実施は、その実現のためのとても大きな 一歩になります、全力で達成する所存です。

皆様の応援、ご協力をお願いいたします。

患者・家族への メッセージ



膵島補充療法を マンスリーサポーターで応援





日本IDDMネットワーク理事(膵島補充療法担当)

松本 慎一 Shinichi Matsumoto

私は米国で膵島移植を学び、2004年に京都大学で日本の膵島移植の1例目を 実施し、インスリン注射からの離脱に成功しました。

2020年には、膵島移植は保険適応になりましたが、臓器提供者が少ない、免疫抑制剤の副作用があるという欠点があります。この欠点を克服しようと研究を続け、医療用ブタと免疫隔離デバイスを用いた、バイオ人工膵島移植にたどり着きました。

医療用ブタの膵島を用いたバイオ人工膵島移植は、海外ではすでに臨床応用されていますが、日本ではまだ行われていません。

2004年に、日本で膵島移植の1例目を行った際に、膵島を分離する技術的な問題、臓器提供者が少ないこと、日本の法律と規則など様々な課題があり、一つ一つ解決することで、実施しました。1例目を実施できたことの原動力は、膵島移植で患者さんを治療したいという情熱でした。

いまは、バイオ人工膵島移植を必要とするすべての患者さんに届けたいという情熱のもと、課題を一つ一つ解決しています。最大の課題である、医療用ブタの量産を目指して、昨年、神戸大学肝胆膵外科内に、一般社団法人医療用ブタ開発機構を立ち上げました。糖尿病治療の選択肢に、インスリンの替わりに、バイオ人工膵島を補充するという治療を確立すると情熱をもって研究すれば、必ず達成できると信じています。

ゴールを達成するには、多くの色々な形での参加する仲間が必要となります。

ゴール達成を祝う仲間が一人でも多くなることを切に願っています。

ご支援をよろしくお願いします。

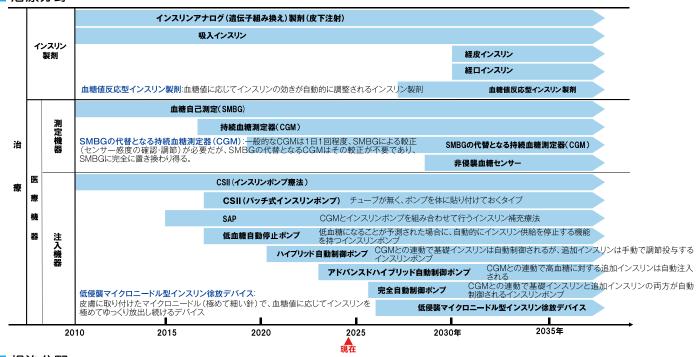
1型糖尿病の根絶(治療・根治・予防)に向けたロードマップ

2021年に策定した「1型糖尿病の根絶(治療・根治・予防)に向けたロードマップ」を本年も下記の専門家の方々のご協力を得て、2024年9月 現在の情報に基づいて見直しました。原則として世界の動きを記述していますが、一部日本に限定した情報は「国内」と記載しています。

年々、研究開発のスピードは加速しており、このロードマップによって様々な医療・医学分野における1型糖尿病の根絶に向けた研究進展の具体的なイメージをもっていただければ幸いです。私たちが支援に力を入れている「バイオ人工膵島移植」もいよいよ目標としている2025年に国内での臨床研究を開始予定です。

本ロードマップはこれからも専門家の方々の助言をいただきながら、毎年更新してまいります。

■治療分野



■ 根治分野



非臨床試験:動物や試験管内の細胞を使って、開発した 医薬品の有効性・安全性などを調査する試験 現在

臨床研究:新しい医療の効果を人を使って検証する試験・研究。「治験」(国から 医薬品や医療機器の製造・販売承認を得るために行う試験)も臨床研究のひとつ。

予防分野

	ワクチン			基礎研究	非臨床試験			臨床研究	実用化	
予 免 疫	遺伝子 治療		基礎研究	非臨床試験	臨床研究			実用化	>	
方 療	抗 _{テブリ} 体 ^{ズマフ}	,		臨床	开究		実用化	テプリズマブ :抗体 を遅らせる効果が	本医薬品のひとつ。膵, り期待されている。(20	島を攻撃するT細胞を)22年11月 米国で
	医標分數等子		基礎研究		非臨床試験	臨床	研究	実用化	分子標的薬 :病気作用する薬。	気の原因になっている
	20	010	20)15	2020	2025		2030年	2035	5年

〈ご協力いただいた専門家の方々〉

■ 治療 あべのメディカルクリニック 院長 川村 智行 京都医療センター臨床栄養科長・糖尿病センター 医長村 田 敬

現在、国内で利用できるインスリン製剤 および医療機器類については、こちら→

■ 根治

国立国際医療研究センター 膵島移植企業連携プロジェクト研究アドバイザー

国立国際医療研究センター 膵島移植企業連携プロジェクト長 東北大学病院 臓器移植医療部 准教授 戸子台和哲

三林 浩二

東京科学大学 生命理工学院 教授 粂 昭苑

東京科学大学 生体材料工学研究所 教授

東京科学大学 総合研究院幹細胞治療研究室 特任准教授 正木 英樹

■ 予防 佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授 永淵 正法

Boston College, Biology Department Postdoctoral Fellow 三根敬一朗 東京大学医科学研究所感染遺伝学分野 特任准教授福井 竜太郎

ご支援・ご協力いただいた皆様





sanofi

佐賀県

協和木材株式会社

サノフィ株式会社

TRUST BANK

株式会社トラストバンク



Medtronic

Engineering the extraordinary

一般財団法人東京マラソン財団

日本メドトロニック株式会社





日本イーライリリー株式会社

I&H株式会社/アイナックス稲本株式会社/株式会社アシスト/アストラゼネカ株式会社/有限会社ASNA アボットジャパン合同会社/綾部市立病院/有明の風/株式会社アングル/株式会社イエローキッチン/イトウ内科クリニック ウィメンズヘルス・ジャパン株式会社/株式会社Will/株式会社エイチツー/江崎グリコ株式会社/株式会社SL Creations 株式会社エヌワイ企画/株式会社オーイーシー/おおい町役場/株式会社オービーシー/日本赤十字社 岡山赤十字病院 洛和会 音羽リハビリテーション病院/株式会社オンフェイス/株式会社風の牧場/医療法人社団青洛会 かみうち内科 クリニック/上里町役場/川上奈々の似顔絵屋さん/川﨑株式会社/株式会社川崎製作所/一般社団法人キフクリエイト 肝付町社会福祉協議会 / 株式会社共栄鍛工所 / 株式会社共同 / 株式会社くすりの福太郎 柏西口店 熊野前にしむら内科クリニック/株式会社 グランリッチウェル/株式会社 栗山百造/GLOW LLC/公立丹南病院組合 特定非営利活動法人 国際ファシリテーション協会/湖南野嶋建設株式会社/医療法人周継会 佐賀駅南クリニック 佐藤製薬株式会社/有限会社讃岐うどんなか浦/株式会社鯖汀村田製作所/サラヤ株式会社/株式会社三条特殊鋳工所 株式会社三条ロイヤルホテル/株式会社三和化学研究所/株式会社CWS/株式会社SHARE EAT 一般財団法人 自治医科大学協栄会/シャープ労働組合/株式会社シャトレーゼ/認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会 植物開発株式会社/株式会社スタッフス/有限会社 征栄建設/ソフトバンク株式会社/税理士法人北陸会計 第一繊維工業有限会社/ダイヤビルテック株式会社/株式会社髙木/高杉昭吾デザイン事務所i_llumi ちいさなおかしやFuffret/DM三井製糖ホールディングス株式会社/株式会社TGサポート/低糖質ライフ テクノロール株式会社/テルモ株式会社/株式会社 唐房米穀/中島商事株式会社/渚クリニック/ナシモト工業株式会社 新潟県央工業高等学校 同窓会/ニチコンワカサ株式会社/ニプロ株式会社/一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 日本リコス株式会社/西蒲原福祉事務組合 ねむの木工房/医療法人野尻医院/パートナー精機株式会社/八峯建設株式会社 公益財団法人パブリックリソース財団/世界空手道連盟 士道館 浜松添野道場/BIJ健康保険組合/株式会社ファインディア 福井エフエム放送株式会社/一般社団法人 福井県眼鏡協会/医療法人社団富家会/株式会社プラスワイズ 北興商事株式会社/医療法人社団松寿会 松浦クリニック/株式会社松縄文五郎商店 医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院/株式会社丸正土木/医療法人社団洛和会 洛和会みささぎ病院 みつわ工業有限会社/南越前町上牧谷区民センター/南越前町役場/特定非営利活動法人南の太陽(南の風) ヤナドリ鋼鐵株式会社/LifeScan Japan株式会社/LINEヤフー株式会社/医療法人社団洛和会 音羽病院 医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院/株式会社ランドビズ/hair dressing Luciora/ロシュDCジャパン株式会社 低糖質おやつとコーヒーLocco

(敬称略)

1型糖尿病希望のバッグ 10 周年



「一生、インスリン注射をすることになります。」

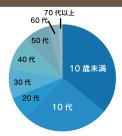
1型糖尿病を発症してまず聞かされる医師からの説明に、ほとんどの患者・家族が絶望感を持たれたのでは ないかと思います。

そんな"絶望"を"希望"に変えるために、発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報をバッグに 詰めた「希望のバッグ」を2014年11月より送りはじめて、今年で10周年を迎えます。

様々な企業の方々や寄付者の皆さまのご支援のおかげでこれまでに 5000 個を超える希望のバッグを患者・

家族に届けることができました。 学校や祖父母向けなど 医療用針の廃棄 BOX 説明に役立つパンフレット 万が一の時に1型糖尿病と わかるラバーストラップ た<mark>っぷり入るリュッ</mark>クサック 血糖のコントロールを 助ける食品のサンプル 1型糖尿病に関する 医療情報が インス<mark>リンポーチ</mark> 書かれた冊子類 これまでに 届けた人数

希望のバッグを受け取った患者の発症年齢



10 代以下のお子さんを中心に、成人発症の患者・ 家族にもお送りしています。

希望のバッグ受け取り時の病歴



約半数の方が、発症後3か月以内に 受け取られています。

希望のバッグを何で知ったか?



インターネットや SNS に加え、病院や薬局など の医療機関からのご紹介で知る方も多いです。

■ 届いた方からのメッセージ

3月に劇症1型糖尿病を発症し希望のバックを頂きました。 相談する人がいないし無知で心細かった私の心の支えでした。 ありがとうございました。

娘が1型糖尿病を発症して右も左も分からない時に希望の バックを送付していただきました。

私の実母が祖父母向けの資料を読んで、「こういう資料がある と分かりやすいね。HPを調べても情報が沢山ありすぎて良く 分からない から。」と言ってくれました。

私自身も患者さん本人の感想(レポート)を読み、泣きました。 1型糖尿病を完治できるような未来を目指して、私も ご協力させていただきたいと思っております。 今後とも、何卒宜しくお願い致します。

中3の息子が2年前に1型糖尿病になり、すぐに申し込みました。 これからどうして行ったら良いか頭が真っ白でしたが、このような 取り組みをしてくださる団体があることがとても心強かったです。 ジュー C グルコースの存在は希望のバッグで知り、インターネット でいつも買っています。味に好き嫌いがある息子にとっては欠かせ ないものになっています。

まだまだこの病気は認知が低く、誤解を招くこともたくさん あります。1型糖尿病でも輝く人生を送れるように今後も 私達の希望であってほしいです。

発症は突然の出来事で、現実を受け入れられず何が起こって どうなるのか、ただただ不安と孤独のなかにいた時に、

希望のバッグへのメッセージ



植木 浩二郎 国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター長から

「希望のバッグ」には 日々を楽しんで 過ごす手がかりが 詰まっています。



糖尿病は残念ながら今のところは根治できない病気ですが、治療法は日々進歩していて、糖尿病でない人と同じように勉学や仕事に励んだり、スポーツや趣味を楽しんだりすることができます。ただ、工夫しないといけないこと、気をつけないといけないことがあります。「希望のバッグ」にはその手がかりが詰まっています。私たち研究者も「糖尿病のない世界」を目指して頑張ります。

希望のバッグの発送担当者から

「希望のバッグ」を受け取った 方々が私が感じたような辛さ から少しでも解放されることを 願って続けています。



日本 IDDM ネットワーク理事長井上龍夫の 妻です。「希望のバッグ」発送の仕事をしてから、

もう 10 年になります。息子が 7 歳で1 型糖尿病を発症してから 33 年が経ちますが、病気を宣告されたときの衝撃、学校の理解の 無い姿勢や息子の将来を想像したときの絶望感は昨日のことの ように覚えています。

この「希望のバッグ」を受け取った方々が、私が感じたような 辛さから少しでも解放されることを願って続けています。この 活動が皆さんの生きる希望と力になれば幸いです。

井上 具恵

ご支援いただいているみなさま

プラチナパートナー

Medtronic

Further Togethe

日本メドトロニック株式会社



日本イーライリリー株式会社



ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

ゴールドパートナー



サラヤ株式会社



サノフィ株式会社

ブロンズパートナー



ロシュDCジャパン株式会社

ロシュ DC ジャパン株式会社



テルモ株式会社





アボットジャパン合同会社



江崎グリコ株式会社

コーポレートパートナー



★式会社 三和化学研究所 株式会社三和化学研究所



LifeScan Japan 株式会社





ル日本リコス



ニプロ株式会社

有限会社プレシャス・アイ

日本リコス株式会社

佐藤製薬株式会社

ご支援いただける法人・個人の方を募集しています

- 1 型糖尿病患者向け「希望のバッグ」プロジェクトにご協賛・ご寄付いただける法人・個人の方を募集しております。
- 1型糖尿病患者・家族の不安を"希望"に変えるため、みなさまのご支援・ご協力をお願いいたします。



日本IDDMネットワークの活動にどれか一つ"参加"してください。

継続して寄付をする

マンスリー るか

月1,000円~

1型糖尿病根絶に向けて 様々な研究を継続して 支えるサポーターです。

1型糖尿病研究基金

移植 サポーター



月1,000円~

バイオ人工膵島移植の実現 に向けて研究を継続して 支えるサポーターです。

READYFOR

バイオ人工膵島移植ジャパン プロトコール2025基金

Yahoo! ネット基金



月100円~

ワンコインでできる継続 寄付です。

YAHOO! ネット募金

1型糖尿病研究基金

※今回のみの寄付もできます。

つながる 墓余



月100円~ 月々の携帯料金と

同時に決済する 寄付です。

つながる募金

1型糖尿病研究基金

※今回のみの寄付もできます。

今回のみの寄付をする

ふるさと 納税



佐賀県庁への日本IDDMネット ワーク指定ふるさと納税です。 返礼品がお選びいただけます。



活動全般

ふるさと 納稅GCF®



佐賀県庁への日本IDDMネット ワーク指定のふるさと納税で 特定の研究を支援できます。

ふるさとチョイスGCF®

特定の研究を指定

活動寄付など



クレジットカード、銀行 振込、郵便振込用紙での 研究支援、活動支援等 様々なメニューの寄付を 受け付けております。

寄付の使途が選べる

ご遺産など



遺言・相続財産・お香典 返しなどによる寄付です。 想いを後世につなぎます。

寄付の使途が選べる

物やポイントで寄付をする

不要に なった物









1型糖尿病研究基金

Tポイント



Yahoo!ネット募金はTポイント でも寄付可能です。1ポイント からご利用いただけます。

YAHOO! ネット募金

1型糖尿病研究基金

※クレジットカード決済もできます。

セブンマイル 🛶 プログラム

セブン&アイグループのお買物 等でたまったマイルを10マイル 単位で寄付ができます。



1型糖尿病研究基金

Amazonで の商品購入



「ほしい物リスト」から商品 をご購入いただくと、当法人 への物品支援となります。



活動全般

その他の参加方法

会員になる



IDDMに関する様々な情報 提供、イベントや教材の 割引などの特典があります。

活動全般

寄付付き 商品の購入

スイーツや糖尿病関連商品 など様々な寄付付き商品 があります。販売いただ ける事業者様も募集して おります。

1型糖尿病研究基金ほか

チャリティー 自販機の設置



売上の一部を寄付する 自動販売機です。

初期コスト0円で設置 いただけます。

1型糖尿病研究基金

募金箱の 設置



お店やお勤め先、イベント 等での設置にご協力くだ さい。募金箱をお送り します。

1型糖尿病研究基金

日本IDDMネットワークへの寄付は、税制優遇措置があります

- ※個人の場合は、所得控除又は税額控除のどちらか有利な方を選ぶことができます。
- ※法人の場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。
- ※寄付をした相続財産が非課税になります。

詳しくは税務署や税理士の方にお尋ねください。

iddm 寄付





iddm 会員

検索



LEGACY GIFT

遺贈寄付 想いを未来につなぐ

遺贈・相続寄付でもご支援をいただいております。

遺贈寄付とは、個人が遺言によって、財産の一部(または全部)をNPO法人などに寄付することです。遺贈寄付の他に、相続財産による寄付もあります。

当法人へも「1日でも早く"根治"の道が開かれることを願って」「患者様そしてご家族の皆さまに、少しでも明るい未来が来ますように。」と多くの方からご寄付やご相談をいただいております。これまで12件の遺贈・相続による寄付をいただきました。



日本IDDMネットワークへの遺贈・相続財産ご寄付の特長

○ ご寄付は、"不治の病"1型糖尿病"根絶"のために活用します。 寄付者のかたの思いに沿って研究助成対象を指定したり、 基金に寄付者のお名前をつける"冠基金"もございます。

iddm冠基金



「例]

「山田和彦1型糖尿病根治基金」 2015年10月30日設立

〈ご寄付者からのメッセージ〉

長男、和彦は壊疽以外の全ての合併症が発症しました。 本人は相当の恐怖と絶望感があったと思いますが、家族 には愚痴の一つも言わず、いつも前向きで少しでも状態が 良くなるよう頑張っていました。

しかし、自分が生きている間に治ることはないと考えていて、 その時が来たら遺産を1型糖尿病の研究をしている機関に 寄付すると、いつも口にしていました。

その願い『根治』を叶えていただきたく希望通り寄付をさせていただきます。

〈使途〉

第1回 山田和彦賞(副賞1,000万円)京都大学iPS細胞研究所所長 山中 伸弥氏

第2回 山田和彦賞 (副賞1,000万円) 大阪大学栄誉教授 坂口 志文氏

第3回 山田和彦賞 (副賞1,000万円) 国立国際医療研究センター 膵島移植プロジェクトアドバイザー 松本 慎一氏

- 金額にかかわらずご支援ください。 相続財産からのご寄付の場合、税制優遇措置がうけられるよう3,000円以上のご寄付をおすすめします。
- 土地・建物などの不動産や有価証券など現金以外でもご支援ください。
- 使途を指定して遺贈寄付することもできます。

遺言は、お元気なうちに作成されてはいかがでしょうか。ご家族や財産の状況が変化しても何度でも遺言は書き替えできます。

残されたご家族の心情にも十分ご配慮された上で、ご家族が生活に困らないような金額でご支援をお待ちしております。

専門家の相談窓口

相続専門の司法書士法人チェスター(東京都中央区)と業務提携を行っており、初回の相談(1時間)は無料です。オンラインでも対応できますので、お気軽に

ご相談ください。

(TEL) 03-6869-5162

(Mail) info@chester-law.jp

▲詳細はこちら

金融機関の相談窓口

佐賀銀行又は三井住友信託銀行福岡支店でも 当法人への遺贈寄付に関する相談に対応していただけます。

NHK「クローズアップ現代」で当法人の 遺贈寄付の取り組みが紹介されました。

放送の中で「遺贈寄付が頼みの綱… 難しくなる研究費確保」として取り上げられました。



遺贈寄附に関するお問い合わせや資料請求は



認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク TEL 0952-20-2062

(平日 9:00~17:00)

FAX 050-3385-8940 legacy@japan-iddm.net



1型糖尿病「治らない」から「治る」へ "不可能を可能にする"を応援する

100人委員会 委員名簿

2024年10月1日現在

AM James Shapiro	アルバータ大学 外科教授	剣持 敬	藤田医科大学病院臓器移植科 教授
秋山 敏博	糖尿病関連機器製造業	小谷 圭	こたに糖尿病内科クリニック 院長
渥美 義仁	永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター センター長	兒玉 明久	こだま医院 院長
穴澤 貴行	京都大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科	小玉 正太	福岡大学 医学部再生・移植医学講座 主任教授
7 07 3213	臓器移植医療部 講師	後藤昌史	東北大学大学院 医学系研究科移植再生医学分野 教授
	The second secon		
粟田 卓也	沖中記念成人病研究所 嘱託研究員	後藤 満一	大阪急性期・総合医療センター 名誉総長
飯島 将太郎	はなまる鍼灸・接骨院 院長	駒崎 弘樹	認定特定非営利活動法人フローレンス 会長
池田 昌人	ソフトバンク株式会社 CSR 本部長 兼 ESG 推進室長	榮 智之	株式会社 Ri-TORU 代表取締役
	SB 新型コロナウイルス検査センター株式会社	坂口 志文	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授
	代表取締役社長	櫻井 健一	千葉大学予防医学センター 教授
石垣 泰	岩手医科大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌	鮫島 雅子	有限会社プレシャス・アイ 代表取締役
	内科分野教授	更家 悠介	サラヤ株式会社 代表取締役社長
石田 崇之	児童書出版社勤務	重徳 和彦	衆議院議員
石戸謙二	DOASTON株式会社 代表取締役	篠塚 周城	元佐賀県議会難病対策推進議員連盟 会長
石原 寿光	日本大学医学部内科学系糖尿病代謝内科学分野 教授	志村 季世恵	特定非営利活動法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ
磯谷 治彦	磯谷内科 院長		代表理事・バースセラピスト
磯山 友幸	ジャーナリスト	下垣 圭介	gooddo 株式会社 代表取締役社長
	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 理事	霜田 雅之	国立国際医療研究センター病院 膵島移植センター センター長
/n## 44.7		相叫。	
伊藤 純子	イトウ内科クリニック 副院長		国立国際医療研究センター研究所膵島移植企業連携プロジェクトプロジェクト長
伊藤 たてお	一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 顧問	白木 夏子	株式会社 HASUNA 代表取締役
	特定非営利活動法人難病支援ネット・ジャパン 代表理事	須永 珠代	株式会社トラストバンク 創業者
井上 徹也	井上クリニック 院長	角 昭一郎	同志社大学嘱託講師
井上 龍夫	認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 理事長	/3 · H MP	株式会社細胞治療技術研究所 研究主幹
井上 優	特定非営利活動法人i さいと 代表理事	陶山 えつ子	熊本難病・疾病団体協議会 代表
イノウエ ヨシオ	株式会社ファンドレックス 代表取締役		一般社団法人日本難病・疾病団体協議会こどもの未来を
岩田 稔	元プロ野球選手/株式会社Family Design M 代表取締役		考える部会 部会長
岩永幸三	地域に飛び出す公務員を応援する首長連合 初代事務局長	曽根原 久司	
石小 干二			
	認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 理事長	瀧浪 裕至	輸入食品会社(代表取締役)
植木 浩二郎	国立国際医療研究センター研究所に糖尿病研究センター長	武田 純子	フリーランスライター
鵜尾 雅隆	認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会	田尻 佳史	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 常務理事
	代表理事		
		田中 彩	NP() 法人ママリーク研究所 理事長
中田川 相十		田中彩	NPO 法人ママワーク研究所 理事長
宇田川 規夫	国際救急法研究所 理事長	田中 彩田中 佳代	久留米大学 医学部看護学科母性看護学
梅村 聡	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員		久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授
	国際救急法研究所 理事長		久留米大学 医学部看護学科母性看護学
梅村 聡 太田 壮	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長	田中佳代	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長
梅村 聡	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン	田中 佳代	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授
梅村 聡 太田 壮 大西 健丞	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事	田中 佳代 谷口 英樹 谷畑 英吾	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長
梅村 聡 太田 壮 大西 健丞	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員	田中 佳代 谷口 英樹 谷畑 英吾 津下	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授
梅村 聡 壮 大西 健丞 大西 俊介 大場	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長	田中 佳代 谷口 英樹 谷畑 英一代 冷水 洋子	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表
梅村 聡 太田 壮 大西 健丞	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員	田中 佳代 谷口 英樹 谷畑 英吾 津下	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授
梅村 聡 壮 大西 健企 大大 大大 大村	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手	田 谷 知 英一洋 表 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役
梅村 聡 太田 壮 大西 健丞 大西 俊介 大村 談一 オーレムルスコウベック	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長	田 谷 谷津 徳 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー
梅村 聡 壮 大西 健企 大大 大大 大村	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス	田 谷 知 英一洋 表 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为 为	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室
梅村 聡 壮田 健康 大大大村 とは 大大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 とはいないかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかった。	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター	田谷谷津徳登中中口畑下永内新井 啓 一洋芳 美光	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授
梅村 聡 太田 壮 大西 健丞 大西 俊介 大村 談一 オーレムルスコウベック	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス	田 谷 谷津 徳 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子 大 子	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室
梅村 聡 壮田 健康 大大大村 とは 大大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 はない 大大村 とはいないかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかっかった。	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター	田谷谷津徳登中中口畑下永内新井 啓 一洋芳 美光	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授
梅村 聡 壮田西 世紀	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター	田谷谷津徳登中中 口畑下永内新内中中 四畑下永内新内 啓啓 できる かっこう かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょう かんしょう かんしょく かんしょ かんしょく かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授
梅村 聡 壮 健 健 俊 彦 ・	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	田 谷 谷津徳登中中 中 四 畑下永内新内 神 島 英一洋芳 啓 英 太 太 郎 郎	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長
梅村田西 西場村レムルストナーカーレムルス・イ 保護 に 輝信 に 輝信 に 瞬尾 に に に に に に に に に に に に に に に に に	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中口 畑下永内新内 神 島原 大子也美光 徳 太朗	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Win 代表取締役社長
梅村田西 西場村レム光 原 輝信 健 健 像 詠いづ代 信 曜信 健 信 晩 二	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中口 畑下永内新内 神 島原村	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Vin 代表取締役社長 株式会社バリューブックス 取締役
梅村田西 西場村レムルストナーカーレムルス・イ 保護 に 輝信 に 輝信 に 瞬尾 に に に に に に に に に に に に に に に に に	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中口 畑下永内新内 神 島原 大子也美光 徳 太朗	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Win 代表取締役社長
梅村田西 西場村レム光 原 輝信 健 健 像 詠いづ代 信 曜信 健 信 晩 二	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中口 畑下永内新内 神 島原村	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Vin 代表取締役社長 株式会社バリューブックス 取締役
梅太大 大大大・岡 小興尾 長鬼柏村田西 西場村レル光 原津崎 船丸原 を建崎 船丸原 に は は は は は は と は は は は は は は は は は は は	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長	田谷谷津徳登中中中中中中中中口畑下永内新内神島原村村村村大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Vin 代表取締役社長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂村田西 西場村レ光 笠津崎 船丸原 健 健俊詠八八 輝信 健昌米隆 化 一位男	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役	田谷谷津徳登中中中中中中中中中中中口畑下永内新内神島原村村村木村	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 / 1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社 Vin 代表取締役社長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加村田西 西場村レ光 笠津崎 船丸原 藤 健 健 健 と に に に に に に に に に に に に に に に に	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士	田谷谷津徳登中中中中中中中中口畑下永内新内神島原村村村村大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加門村田西 西場村 山光 笠津崎 船丸原 藤脇 全 健 健 と は と は と は と は と は と は と は と は と は	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長	田谷谷津徳登中中中中中中中中中山地下永内新内神。島原村村村木川中、一大井、西、南、村村村、川、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加村田西 西場村レ光 笠津崎 船丸原 藤 健 健 健 と に に に に に に に に に に に に に に に に	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士	田谷谷津徳登中中中中中中中中中中中口畑下永内新内神島原村村村木村	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加門村田西 西場村 山光 笠津崎 船丸原 藤脇 全 健 健 と は と は と は と は と は と は と は と は と は	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長	田谷谷津徳登中中中中中中中中中山地下永内新内神。島原村村村木川中、一大井、西、南、村村村、川、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事
梅太大 大大大・岡 小興尾 長鬼柏桂加門川村田西 西場村レ光 笠津崎 船丸原 藤脇北 健 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 に 一也男 子 人	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人	田谷谷津徳登中中中中中中中中中位西西西中口畑下永内新内神島原村村村木川田村代樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 /1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アパウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授
梅太大 大大大・岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川村田西 西場村レー 笠津崎 船丸原 藤脇北 添 は健 健俊詠い代 輝信 健昌米隆則孝秀 高端 小彦一ヶ 信 暁 二也男 子 人 志	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人	田谷谷津徳登中中中中中中中中中位西西西能中口畑下永内新内神島原村村村木川田村勢代 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介代 樹 吾代子也美光 徳 郎郎	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 /1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川村田西 西場村 い 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長	田谷谷津徳登中中中中中中中中中位西西西能野中口畑下永内新内神島原村村村木川田村勢田代 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平代 樹	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 /1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院 糖尿病・内分泌・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊村田西 西場村山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池 社健 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透彩壮健 介彦一寸 信 暁 二也男 子 人 志行	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中住 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社
梅太大 大大大工岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川村田西 西場村 い 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長	田谷谷津徳登中中中中中中中中中位西西西能野中口畑下永内新内神島原村村村木川田村勢田代 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平代 樹	久留米大学 医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院 医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手 /1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院 糖尿病・内分泌・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木村田西 西場村心 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村田田 性像詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那、社健 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那、一个彦一、 信 暁 二也男 子 人 志行 智	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中住 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木中村田西 西場村 山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村心村田	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川住 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院 糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 保存 長 同学の に に に に に に に に に に に に に
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木村田西 西場村心 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村田田 性像詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那、社健 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那、一个彦一、 信 暁 二也男 子 人 志行 智	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 /ボノルディスクファーマ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社体うしん 代表取締役 はぐはぐキッズクリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木平京村田西 西場村山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村八野 住 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那沙文 全球社建 介彦一分 信 暁 二也男 子 人 志行 智利代	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早平中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬井佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇悦代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実 子代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学教会研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社バリューブックス 取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社ゆうしん 代表取締役 はぐはぐキッズクリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 はるひ建設株式会社 代表取締役社長
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木中村田西 西場村 山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村心村田	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 /ボノルディスクファーマ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学大学総合研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社エヌワイ企画 代表取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社体うしん 代表取締役 はぐはぐキッズクリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木平京村田西 西場村山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村八野 住 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那沙文 全球社建 介彦一分 信 暁 二也男 子 人 志行 智利代	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早平中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬井佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇悦代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実 子代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学教会研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社バリューブックス 取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社ゆうしん 代表取締役 はぐはぐキッズクリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 はるひ建設株式会社 代表取締役社長
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木平京 久粂村田西 西場村山 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村八野 野昭 建俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那汀文 建苑、介彦一寸 信 暁 二也男 子人 志行 智礼代 夫	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 「ボノルディスクファーマ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早平広中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬井瀬佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇悦正代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実 子和代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学教会研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学院医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社バリューブックス 取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社 株式会社はかうしん 代表取締役 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社で、プリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 はるひ建設株式会社 代表取締役社長 D Medical Clinic Osaka 院長 神戸大学大学院 医学研究科糖尿病・内分泌内科学部門
梅太大 大大大一岡 小興尾 長鬼柏桂加門川 川川菊木ギ京 久粂ラ村田西 西場村レー 笠津崎 船丸原 藤脇北 添村池村小野 野 ヴィ 雅佳 健俊詠八代 輝信 健昌米隆則孝秀 高智透那が文 建苑 ア まかり 信 暁 二也男 子 人 志行 智が代 夫 ラーウ に	国際救急法研究所 理事長 医師・参議院議員 太田形成外科クリニック 院長 認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン 代表理事 衆議院議員 慶友銀座クリニック 院長 元エアロビック競技日本代表選手 ノボノルディスクファーマ株式会社 前代表取締役社長 日本メドトロニック株式会社 ダイアビーティス シニアダイレクター ロシュDCジャパン株式会社 代表取締役社長 株式会社理研鼎業 主任コーディネーター 日本赤十字社の選知医療センター名古屋第一病院 副院長兼検査部長 京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門長 教授 認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 わたまちキッズクリニック 院長 ソニアシステム株式会社 代表取締役 加藤内科クリニック 管理栄養士・日本糖尿病療養指導士 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表者 兼ソシオ・マネジメント編集発行人 ケアプロ株式会社 代表取締役 あべのメディカルクリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長 埼玉医科大学小児科 教授 ソレイユ千種クリニック 院長	田 谷 谷津徳登中中 中 中中中中中仁西 西西能野野橋早早平広中 口 畑下永内新内 神 島原村村村木川 田村勢田中本川瀬井瀬佳 英 英一洋芳 啓 英三大周嘉博伸 健理謙康友友聡昇悦正代 樹 吾代子也美光 徳 太朗樹治克文一 朗明介平和美実 子和代 樹	久留米大学医学部看護学科母性看護学 久留米大学大学院医学研究科助産学分野 教授 東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長 再生医学分野 教授 滋賀県湖南市 前市長 女子栄養大学 特任教授 ファンドレイジング・ラボ 代表 株式会社フロムゼロ 代表取締役 元陸上競技選手/1-GATA リーダー 東京科学教会研究院高等研究府幹細胞治療研究室 特別栄誉教授 大阪大学大学院 医学系研究科健康発達医学寄附講座 教授 中部ろうさい病院糖尿病・内分泌内科 部長 株式会社バリューブックス 取締役 医療法人社団紘和会平和台病院 名誉理事長 株式会社バリューブックス 取締役 医師・衆議院議員 京都大学 名誉教授/特定非営利活動法人オール・ アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 熊本中央病院糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 慢性疾患患者支援プロジェクト・MYSTAR-JAPAN 代表 KTX 株式会社 株式会社 株式会社はかうしん 代表取締役 はぐはぐキッズクリニック 副院長 早川クリニック 院長 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 はるひ建設株式会社 代表取締役社長 D Medical Clinic Osaka 院長

福田 怜奈

株式会社 SHARE EAT 代表取締役

事業本部長

M e m b e r s L i s t

仙台市立病院 副院長兼 小児科部長兼新生児集中治療科長 藤原 幾磨 古川康 衆議院議員 古谷 文太 株式会社百家堂 代表取締役 増田 美央 ベリークリニック 院長 松原明 認定特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度 をつくる会 創業者 松本 慎一 国立国際医療研究センター研究所 膵島移植企業連携 プロジェクト 研究アドバイザー/神戸大学 客員教授 峰 悦男 峰公認会計士事務所 公認会計士・税理士 迎里 伸 有限会社先島メンテナンス 代表取締役 迎里 智恵美 有限会社エム・エステート 代表取締役 村上 龍 作家・映画監督 株式会社オーイーシー 会長 森 秀文 大阪大学大学院 医学系研究科臨床遺伝子治療学寄附講座 森下 竜一 森地 一夫 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 特命コミッショナー 柳澤 克之 桑園糖尿病内科クリニック 院長

メディカル・モバイル・コミュニケーションズ合同会社

山川 浩正 ex.THE BOOM ベーシスト / ミュージシャン

山口 智之 東京薬科大学生命科学部 生命医科学科 再生医科学研究室

教授

山田 高嗣 済生会奈良病院 副院長兼外科部長

山田 圭子 漫画家

山中 伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所 名誉所長・教授 公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団 理事長

山本 康史 特定非営利活動法人みえ防災市民会議 議長

山本 大助 山本大助法律事務所

山本 麻未 mimi face

| 弓削 勇 医療法人社団三昧耶会ゆげ耳鼻咽喉科 理事長 | |吉川 | 昌江 金城学院大学薬学部薬学科臨床薬学 教授

吉澤 淳 特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク

代表理事

吉田 敬 1-GATA キーボーディスト / クリエーター

渡邊 智惠子 株式会社アバンティ 相談役 渡辺 裕二 株式会社トップ 代表取締役社長

以上、五十音順

100社委員会 委員名簿

わかばやし眼科 院長

矢野 まゆみ 医療法人社団杜の木会もりの木クリニック 理事長

医療法人いせ山川クリニック 理事長

柳澤 昭浩

山形 和正

山川 伸隆

2024年10月1日現在

i_llumi 滋賀県大津市	デザインによって1型糖尿病患者の治療環境を豊かにするとともに、社会に対し1型糖尿病を周知させることを目指します。
特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク 東京都新宿区	大規模災害発生時に疾患を超えた連携・協力をいたします。
イトウ内科クリニック 愛知県豊田市	患者や世間の人に日本IDDMネットワークの意義や活動を紹介します。
株式会社エヌワイ企画 佐賀県佐賀市	1型糖尿病研究支援自動販売機を設置します。希望の印刷プロジェクトにより1型糖尿病研究基金に寄付いたします。
特定非営利活動法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン 兵庫県神戸市	1型糖尿病に関する学術研究論文をこちらのNPOのホームページで紹介し、患者に正確な情報を提供します。
株式会社オンフェイス 千葉県市原市	日本IDDMネットワークの活動を広報します。マンスリーサポーター募集に協力いたします。
カバヤ食品株式会社 岡山県岡山市	1型糖尿病患者のためのジューCグルコースを製造・販売いたします。
株式会社 小島芳栄堂 佐賀県有田町	商品の売り上げの一部を1型糖尿病研究基金に寄付いたします。
サラヤ株式会社 大阪府大阪市	希望のバッグプロジェクトに協賛し、商品を提供いたします。日本IDDMネットワークのシンポジウムに協賛、展示いたします。
株式会社SHARE EAT 東京都板橋区	商品の売り上げの一部を1型糖尿病研究基金に寄付いたします。
Sky株式会社 東京都港区、大阪府大阪市	冠基金を設立し1型糖尿病根治に向けた研究助成を支援いたします。
ソレイユ千種クリニック 愛知県名古屋市	日本IDDMネットワーク主催イベントに参加・協力します。 インターネットメディアを介した日本IDDMネットワークの紹介や1型糖尿病関連情報を発信します。
司法書士法人チェスター 東京都中央区	お子様がいらっしゃらない独り身の方やご夫婦の方の、相続や遺言に関するアドバイスをいたします。
株式会社トップ 東京都足立区	日本IDDMネットワーク主催イベントに参加、協力します。
ニプロ株式会社 大阪府大阪市	日本IDDMネットワークのイベントに協賛、参加します。
日本メドトロニック株式会社 東京都港区	日本IDDMネットワークの企画に参加します。
ノボノルディスクファーマ株式会社 東京都千代田区	自社における糖尿病の根治を目指した1型糖尿病の研究、新薬、デバイスの研究・開発を継続していくことはもちろんのこと、日本IDDMネットワークの活動支援および 支援を通じて患者さんやご家族との情報交換、患者さんとその家族の方の生活の質(QOL)を向上させる活動への支援や希望のバッグへの協賛などに取り組みます。
はるひ建設株式会社 東京都台東区	1型糖尿病の認知度向上に取り組むとともに 当社の売上げの一部を 1型糖尿病研究基金に寄付いたします。
有限会社プレシャス・アイ 福岡県福岡市	売り上げの一部を1型糖尿病研究基金に寄付いたします。
株式会社保険プラザ 神奈川県相模原市	日本IDDMネットワークの目指す理念を共有し、保険の提案を通して、広く普及活動を行います。
三菱倉庫株式会社 東京都中央区	希望の自動販売機プロジェクトの設置場所を紹介します。
mimi face 東京都板橋区	低血糖アラート犬養成事業を支援するチャリティイベントを開催いたします。
	いし エナギル

以上、五十音順



団体情報

■団体概要

名称 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

設立 1995年9月 法人格取得 2000年8月 事務局有給職員数 6名

役員 2024年11月1日現在

理事長 井上 龍夫 患者家族 理事長 岩永 幸三 患者家族 理事 伊藤 たてお 難病支援NPO代表(無報酬) 理事 山本 康史 防災NPO代表(無報酬) 松本 慎一 理事 移植外科医(無報酬) 理事 根木 佳織 災害支援NPO代表(無報酬) 理事 山田 健一郎 中間支援NPO代表(無報酬) 理事 井上 優 まちづくりNPO代表(無報酬) 監事 野口 淳子 中間支援NPO代表(無報酬)

■団体のあゆみ

1995年(平成7年) 1月17日に起きた阪神・淡路大震災では、被災地の患者はインスリンの入手等に大変な苦労を強いられました。この震災が契機となり、こうした緊急時の対応を含めた患者・家族会の全国的連携を図るため同年9月に「全国IDDM連絡協議会」が発足しました。これが日本IDDMネットワークの最初の姿です。

<1995年 (平成7年) >

1月17日 阪神・淡路大震災発生

9月3日 全国IDDM連絡協議会発足

<2000年(平成12年)>

8月21日 特定非営利活動法人全国IDDMネットワーク設立(全国 IDDM連絡協議会を法人化)し事務所を佐賀市へ移転

<2002年 (平成14年) >

3月 1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル (Part1) を発行

<2003年 (平成15年) >

6月9日 名称を「日本IDDMネットワーク」へ変更

<2004年 (平成16年) >

11月25日 ロビー活動により、参議院厚生労働委員会で20歳以上の 患者支援実現に関して「今後の課題だと思っているので、 難病対策まで含めて整理して考え方を示すべく、検討す る」旨の厚生労働大臣答弁や「継続した治療が受けられ るよう成人の難病対策との連携を可能な限り図るととも に、福祉サービスの充実についても取り組むこと」という 同委員会の付帯決議がつくに至る。

<2005年 (平成17年) >

5月 1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart2を発行

8月 1型糖尿病研究基金を設立

<2006年 (平成18年) >

1月28、29日 創立10周年記念イベント「1型糖尿病を考える全国 フォーラム」を東京都で開催

<2007年 (平成19年) >

9月 1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart3—災害対応 編―を発行

<2009年 (平成21年) >

6月 「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」を発行 <2010年 (平成22年) >

1月 1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart4―1型糖尿病 根治の道を拓く―を発行

5月 インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとり が希望を持って生きられる社会を実現するために、日本 IDDMネットワーク基本方針2010で「救う」「つなぐ」「解 決する」の3つの約束を掲げる。

<2011年 (平成23年) >

1月 『1型糖尿病「治らない」から「治る」—"不可能を可能に する"—を応援する100人委員会』発足 <2012年(平成24年)>

3月 日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催(東日本大震災により1年延期)を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にすることとする。

8月3日 全国で初めて所轄庁(都道府県・政令市)が認定した「認 定特定非営利活動法人(寄付者に税制優遇措置あり)」 となる。

12月 1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart5ー患者と家族の体験編ーを発行

<2013年 (平成25年) >

3月24日 『1型糖尿病「治らない」から「治る」―"不可能を可能にする"―を応援する希望の100社委員会』発足

5月 「1型糖尿病 [IDDM] お役立ちマニュアルPart3-災害対 応編-別冊 1型糖尿病 [IDDM] 関係者の東日本大震災」 を発行

10月 1型糖尿病の社会啓発に取り組むため、絵本 (3巻セット) を日本語・英語併記で発行

<2014年 (平成26年) >

1月 第6回1型糖尿病研究基金の研究助成公募に当たって、従来の「根治」に加えて「治療」「予防」を研究テーマに加えて1型糖尿病の"根絶"を最終目標に掲げる。

11月 発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な医療情報冊子等を詰めた「希望のバッグ」の配布開始

<2015年 (平成27年) >

2月20日 カバヤ食品株式会社と日本IDDMネットワークとの協働事業 "1 型糖尿病の患者のためのジューC 事業"が、「第11回日本パートナーシップ大賞グランプリ」を受賞。

<2016年(平成28年)>

9月 低血糖を患者に教えてくれる"低血糖アラート犬"の日本 導入に向けて事業着手

<2017年 (平成29年) >

6月 1型糖尿病研究基金創設後初めて年間1億円を超える研 究助成を実施

12月 インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望の バッグの配布開始

<2018年 (平成30年) >

6月 「山田和彦1 型糖尿病根治基金」(冠基金)を財源にした 「第1 回山田和彦賞」を山中伸弥京都大学iPS 細胞研究 所長に決定し研究資金1000万円を贈呈

<2019年(平成31年、令和元年)>

6月 1型糖尿病の根絶に向けた研究助成が累計で3億円を突破

9月 「第2回 山田和彦賞」を坂口志文 大阪大学免疫学フロン ティア研究センター実験免疫学特任教授に決定し研究 資金1000万円を贈呈

12月 第9回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体に選ばれた。

<2020年(令和2年)>

5月 新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインセミナーを開始

6月 1型糖尿病の根絶に向けた研究助成が累計で4億円を突破

11月 「日本IDDMネットワーク創立25周年記念 チャリティー オークション」をオンラインで開催し、吉永小百合さん等 各界の著名人の方々に出品いただいた。

<2021年 (令和3年) >

5月 マンスリーサポーターが500名を突破

10月 「日本IDDMネットワーク創立25周年記念イベント (新型 コロナウイルス感染症拡大により1年延期)を佐賀市で開催

<2022年(令和4年)>

6月 1型糖尿病根絶に向けた研究支援が累計で6億円を突破 <2023年(令和5年)>

3月 1型糖尿病根絶に向けた研究支援が累計で7億円を突破

5月 東京マラソン2024チャリティの寄付先団体に選ばれた

10月 高齢患者支援サービス構築に向けて事業着手

<2024年(令和6年)>

2月 1型糖尿病根絶に向けた研究支援が累計で8億円を突破

4月 佐賀県庁への企業版ふるさと納税の仕組みを活用し、 佐賀の成人(25歳まで)1型糖尿病患者を対象とした 医療費助成を開始。

令和5(2023)年度会計報告 ^{令和5(2023)年度 活動計算書}

〒和3(2023)年段 右動計算者					
科目	金	金額(単位:円)			
1 経常収益					
1. 受取会費					
正会員受取会費	438,000				
賛助会員受取会費	1,488,000				
その他の会員受取会費	1,968,000	3,894,000			
2. 受取寄附金					
受取寄附金(活動一般)	27,945,658				
受取寄附金(1型糖尿病研究基金)	154,938,917	182,884,575			
3. 受取助成金等					
受取助成金	1,870,629				
受取負担金	13,877,800	15,748,429			
4. 事業収益					
お役立ちマニュアル出版収益	14,405				
Tシャツ販売収益	50,000	107.000			
調査研究収益	133,593	197,998			
5. その他収益	4 0 4 2 5 0 5				
受取利息	4,842,505	F 201 FF1			
雑収益	539,046	5,381,551	200 106 552		
経常収益計 II 経常費用			208,106,553		
1. 事業費					
(1) 人件費					
役員報酬	7,353,000				
	15,000,288				
法定福利費	3,149,592				
福利厚生費	74,814				
人件費計	25,577,694				
(2) その他経費	23/377/031				
売上原価	181,972				
業務委託費	23,862,648				
印刷製本費	3,160,766				
会議費	47,829				
諸謝金	338,137				
賃借料	407,844				
広報費	6,639,514				
消耗品費	2,577,373				
旅費交通費	1,840,878				
支払手数料	1,361,625				
通信運搬費	4,362,092				
諸会費	111,300				
支払寄付金	96,560,000				
支援用物品費	8,453,913				
荷造運賃	2,531,034				
雑費	421,820				
その他経費計	152,858,745	470 45			
事業費計		178,436,439			

科目	金	額(単位:円])
2. 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	1,197,000		
給料手当	5,454,651		
法定福利費	1,145,305		
福利厚生費	27,205		
人件費計	7,824,161		
(2)その他経費			
業務委託費	5,178,971		
印刷製本費	369,086		
会議費	680		
減価償却費	490,334		
賃借料	109,758		
消耗品費	1,214,647		
水道光熱費	122,984		
旅費交通費	240,553		
支払手数料	1,077,630		
租税公課	666,317		
保険料	433,690		
通信運搬費	637,341		
諸会費	12,825		
地代家賃	1,224,805		
雑費	329,102		
その他経費計	12,108,723		
管理費計		19,932,884	
経常費用計			198,369,323
当期経常増減額			9,737,230
Ⅲ 経常外収益			_
経常外収益計			0
IV 経常外費用			_
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			9,737,230
法人税、住民税及び事業税			81,000
当期正味財産増減額			9,656,230
前期繰越正味財産額			147,576,265
次期繰越正味財産額			157,232,495

[※]本年度は「その他の事業」は実施しておりません。

令和5(2023)年度 貸借対照表

今和	6年6	月30	日現右

科目	金額(単位:円)				
I 資産の部					
1 流動資産					
現金預金	36,546,410				
前払費用	104,400				
未収入金	1,749,000				
棚卸資産	172,834				
貯蔵品	12,653				
流動資産合計		38,585,297			
2 固定資産					
(1) 有形固定資産					
工具器具備品	163,245				
リース資産	1,254,000				
有形固定資産計	1,417,245				
(2) 無形固定資産					
ソフトウェア	635,976				
無形固定資産計	635,976				
(3) 投資その他の資産					
冠基金事業特定資産	61,266,678				
投資有価証券	86,297,616				
保険積立金	10,000,000				
投資その他の資産計	157,564,294				
固定資産合計		159,617,515			
資産の部合計			198,202,812		

科目	金	額(単位:円])
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	39,440,880		
前受金	70,000		
預り金	108,937		
未払法人税等	81,000		
未払消費税等	15,500		
流動負債合計		39,716,317	
2 固定負債			
リース負債	1,254,000		
固定負債合計		1,254,000	
負債の部合計			40,970,317
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		147,576,265	
当期正味財産増減額		9,656,230	
正味財産合計			157,232,495
負債及び正味財産合計			198,202,812



ピフクマリとその父。ピフはインドのバンガロールで1型糖尿病とともに生きています。

Driving change for the next 100 years

一次の100年に向けて変革を推進する一

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 www.novonordisk.co.jp JP24NNG00013 (2024年5月作成)

ノボノルディスクは、健やかな社会の実現に貢献する ため、絶え間ない努力を続けていますが、それは 私たちだけで実現できることではありません。

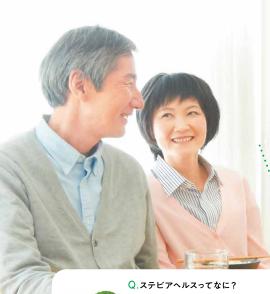
今日の課題へ対処するためには、医薬品の提供に とどまらず、パートナーシップを結ぶことによる疾患 啓発活動、予防の改善、医療へのアクセス拡大、循環 型の考え方を取り入れることが求められています。

ノボ ノルディスクの変革を推進する取り組みについては こちらをご覧ください novonordisk.co.jp



糖質ケアを応援。 糖質ケアを応援。 が家族の健康のために糖質は抑えたい。でも美味しい食 事を楽しみたい!、そんな 願いに応えた天然甘味料の ステビアと食物繊維を配合 したロカボ甘味料がステビ アヘルス®。砂糖と同量の置き アヘルス®。砂糖と同量の置き

おいしさその意意カロリーはんぷん!



砂糖と 同じ甘さです

> 1回の食事で 10g(大きじ約1杯)



A. 天然甘味料ステビアと食物繊維を配合した糖類不使用のロカボ甘味料。 ステビアは葉自体に甘味成分が含まれ、古くから醤油や漬物にも使用されていた歴史のある食品です。緩やかな糖質コントロールを推奨するロカボ®の観点から無理なく健康的な食生活をサポートする砂糖代替用の甘味料です。

ステビアヘルスでつくる 機能性表示食品



WEBで公開中!

ステビアヘルス 検索



イヌリンプラス

機能性関与成分イヌリンを含む機能性 表示食品。おなかの調子を整える効果 が報告されています。 届出番号G812



ステビアヘルス ホワイト

天然素材のエリスリトールを配合した白色粉末で、すっきりしたくせのない甘さが特徴のため、 ヨーグルトやパン、製菓やドリンク等、色をつけた くないお料理に向いています。



ステピアヘルス ブラウン

食物繊維イヌリンをベースにしており、コクを感じる深みのある甘さで、すきやきや煮物料理等、熱を加えるお料理に向いています。

認定特定非営利活動法人
日本IDDMネットワーク

ステビアヘルスは糖質制限をされている方を応援します!

/ 日本リコス 株式会社

無理なく糖質制限

100 0120-671-042

広島県福山市南手城町2-32-14 https://steviahealth-shop.com お近くのスーパー・ドラッグストアなどでお買い求めいただけます。 電話注文も承っております。





カロリー 0 に機能をプラスした

プレミアムな甘味料



W機能響



日常生活(安静時や日常活動時)の エネルギー代謝において 脂肪の燃焼を高める

食後血糖値の上昇を おだやかにする

100%植物由来



ウリ果の果実「羅漢果」と る少糖「アルロース」から 生まれました。

ロカボ糖質0※2



独自の羅漢果エキスと アルロースの配合により 実現。

砂糖同量、加熱OK



砂糖と同じ甘さなので、重量 換算が不要。加熱しても甘 味が損なわれません。

※1 本品にはアルロースが含まれます。アルロースには日常生活(安静時や日常活動時)のエネルギー代謝において、脂肪の燃焼を高める機能があることが報告されています。また、アルロースには糖の吸収を抑えて食後の血糖値の上昇をおだやかにする機能があることが報告されています。届出番号: 11062 ※2 ロカボ糖質とは、利用可能炭水化物を元に算出したものです。

- ●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のパランスを。 ●本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。 ●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。



日本イーライリリーは製薬会社として、

人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、 がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、 成長障害、疼痛などの領域で、日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28 www.lilly.co.jp インスリン治療に合わせた生活から、

生活に合わせた インスリン治療へ

もっと楽に もっと私らしく



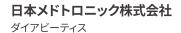




LINE 公式アカウント 友だち募集中!







medtronic.co.jp





We chase the *miracles* of science to improve people's lives

私たちは人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求します。





Dexcom

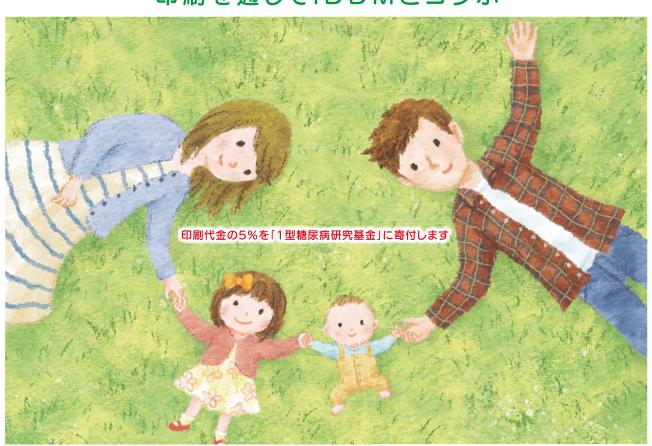
Our Mission

健やかな生活を <u>ご自身の力で</u>手に入れる





印刷を通してIDDMとコラボ



₩ 株式 エヌワイ企画 〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町4-13 TEL 0952-23-4528 FAX 0952-25-4763 🔯 nykikaku@almond.ocn.ne.jp





認定特定非営利活動法人

日本IDDMネットワーク

〒840-0854

佐賀県佐賀市八戸2丁目1番27-2号

TEL 0952-20-2062

FAX 050-3385-8940

⊠ MAIL info@japan-iddm.net

☐ WEBSITE https://japan-iddm.net/

日本 IDDM ネットワーク

